

島根大学附属図書館 年報 2018

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY Annual Report 2018

附属図書館長就任にあたり

附属図書館長に就任して3ヶ月ほどが経ちました。島根大学に勤務して30年以上経ちますが、図書館の利用者であった立場から、全体の運営に関わる立場に変わり、この変化にやささか私自身驚きつつ、責任の重大さを感じながら島根大学附属図書館の将来について考えていきたいと思っております。

2019（令和元）年5月28日に出雲市大社町にある手銭記念館と島根大学の包括的連携協定が締結されました。江戸時代の出雲地方における古文書や美術工芸品が数多く保存されている美術館で、解読には20年かかると言われていたほどの貴重な古文書や古典籍が多くあります。法文学部の田中則雄先生、小林准士先生、野本瑠美先生らのご尽力で、これまでに研究実績を積み重ねてこられて、図書館も共同で研究が進んで来たと聞いております。このような地道な活動も初めて知った次第です。

図書館の蔵書数が本館と医学図書館を合わせて98万冊であるということも、最近知りました。あと数年すると記念すべき100万冊を超えると推定されます。多くの貴重な資料を有した島根大学の財産だと感じます。図書館は学生の学びの場であり、情報収集の中心的な場です。貴重な図書、資料が有効に利用され、学生の成長を後押し続ける使命があると思います。一方で、教員は図書館から遠ざかり、来館者が少ないと聞いております。先生方にもぜひ足を運んでいただき、最近の書籍などを眺めていただきたいと思っております。

私は図書館を訪れることは比較的多い方ですが、自分の専門外の本を読むことが好きです。これは、若かりし頃の習慣が戻って来たのだと思っています。中高生の頃は毎日のように図書館に行っておりました。その当時は年間100冊ぐらいの本を読むことを1つの目標として、小説、歴史書、数学書、科学書から気になった本を適当に選んで読んでおりました。小説では、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、司馬遼太郎、吉川英治、星新一などの著書を当時よく読んでいました。大学生になってからはあまり本を読まなくなりましたが、大学生の頃に読んだジェームスワトソンの「遺伝子の分子生物学」を読んで感動したことから、その道に進み、留学先も彼が所長をしているコールドスプリングハーバー研究所を選びました。私の専門は遺伝子研究で、特に酵母を材料として基礎的な細胞周期の研究やコエンザイムQの生合成研究を進めて来ました。研究者になってからは、もっぱら英語の論文を読むことが多くなりました。20年ほど前は、図書館に行って、論文のコピーを取り寄せるという利用の仕方が多かったのですが、今は研究室に居て、電子ジャーナルをダウンロードして読む形式がほとんどです。電子ジャーナルが読めなくなると研究の進展に大きな影響を及ぼしますので、これにアクセスできるかどうかは大きな問題です。

朝日新聞が2019（令和元）年5月9日の記事で取り上げていますように、電子ジャーナル価格の高騰は世界各地の研究機関で問題となっています。いわゆる大手の商業出版社が学術論文出版の多くを担っていることから、研究者はそこに投稿すると同時に、大学は研究成果の最新情報を得るために出版社と契約をします。論文を掲載するのにも経費がかかり、

購読するのにも経費がかかるという仕組みになっているのですが、査読はボランティア的に行われます。大手の商業出版社はその仕組みを利用して、利益を上げすぎているのではないかという批判が上がっています。

また、公的資金によって得られた研究成果は万民が共有すべきもので、一部の人達しか読めない状況はおかしいという議論があります。そこで論文のオープンアクセス化という方向性が出て来ます。研究者が出版に必要な経費を自ら支出して、誰でもインターネット上で論文が見られるようにする方式がその1つです。オープンアクセス化は歓迎すべきもので、商業出版社との対抗軸になるでしょう。図書館などのリポジトリで論文を公開することもその考えの1つで、当館でも『SWAN』という名称で、研究成果を収集、公開していますが、さらに広げていく必要性があります。一方でオープンアクセス化に伴い、ハゲタカジャーナル（粗悪学術誌）の問題が発生しています。本来、学術誌は関連の専門家が審査して掲載に値するかどうかを判定しますが、その審査のプロセスを形骸化して、質の保証をせずに論文を掲載するオープンアクセス誌を指します。日に何件もハゲタカジャーナルからの論文投稿を呼びかけるメールが来て、私も含めて辟易としている先生方が多くいます。信頼性がある査読論文と判断する1つの基準は、クラリベイトアナリティクス社のWeb of Scienceやエルゼビア社のScopusに登録されていることです。年間で200万超の論文数がリストアップされていますが、それらの論文を掲載している雑誌に投稿することが推奨されます。

島根大学では図書館コンシェルジュの活動が活発で、2018（平成30）年度国立大学図書館協会賞の受賞につながっています。これは、図書館の非常に貴重な活動で、図書館離れが言われる中でも、積極的に図書館の活動をサポートする姿は頼もしく、これからも応援して行きたいと思っております。

まだ、就任して日が浅いですが、図書館の運営に尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



附属図書館長 川向 誠（2019年7月）

附属図書館の理念と目標

2013（平成25）年8月2日学術情報機構附属図書館運営会議承認

理念

島根大学は、社会の発展と進歩に貢献するため、豊かな人間性と専門性を身につけた人材の養成を使命とし、創造性ある研究の促進や地域連携を推進しています。（「島根大学憲章」より）

附属図書館は、島根大学における学修、教育、研究を支援するための基盤施設として学術情報の収集、提供に努め、また、地域や国際社会との連携をすすめ、地域に根ざし、社会に貢献できる図書館を目指します。

目標

1. 学修・教育支援のための資料と環境の整備

学生の学修を支援するため、充実した資料と学修環境を整備し、人格を育む教育を目指して、学内の教育研究プログラムと連携した教育支援を行います。

2. 研究支援のための学術情報整備

多様な分野の特色ある高度な研究を支援するため、国内外の学術情報の収集整備に努め、これらを効率的に利用できる電子図書館機能を充実します。

3. 地域の学術情報拠点としての連携協力

地域の特性と大学の特色を生かした企画、運営をすすめ、地域の学術情報拠点として、資料提供、連携企画、情報発信等を積極的に行います。

4. 学術コミュニケーションへの貢献

大学の研究成果や貴重資料を世界に向けて発信し、学術コミュニケーション活動に貢献します。

※2016（平成28）年度から附属図書館は機構から外れ、単独部局となった。

CONTENTS

TOPICS	4
図書館の動向	
・図書館コンシェルジュの活動	8
・地域コミュニティラボ	
—地域の情報を発信する展示スペース—	10
・社会貢献—学術情報の提供をとおして—	12
・学術情報基盤整備計画と	
電子ジャーナル・データベース	14
統計	
・基本統計	15
・利用者	16
・貸出	17
・図書	18
・図書館資料費	19
・電子ジャーナル／データベース	20
・Webサービス	21
・相互協力	22
・講習会／その他	23
その他の記録	
・図書館日誌	24
・報道／講師等	25
・雑誌等での発表・報告／研修等への参加／	
人事異動／刊行物	26
・組織／沿革／会議／参加組織	27



島根大学附属図書館マスコットキャラクター
(左から) みいなちゃん、ライム博士、けんさくくん

中国四国地区大学図書館協議会総会等を開催

第66回中国四国地区大学図書館協議会総会を島根県民会館で開催した。この協議会は、大学図書館の共通問題を研究討議し、その健全な発展を期することを目的とした組織で、2018（平成30）年度の総会は島根大学が当番校となった。

中国四国地区の大学図書館の館長、事務部課長ら計約100名が出席し、本学の服部学長の開会挨拶に続く全体会議では、年間の事業計画や予算案などについて審議した。その後、国公私立大学の各館長と事務部課長とに分かれての職務別会議が行われ、各大学が抱える諸課題や「大学図書館における読書バリアフリーサービス」などについて意見交換が行われた。

また、国立大学図書館協会中国四国地区協会の第45回総会も同会場で開催され、各協議題・承合事項について話し合われた。

日時：2018（平成30）年4月19日（木）・20日（金）

場所：島根県民会館

【2018年4月】



島根大学オープンアクセス方針の公開

本学の研究成果のオープンアクセス化を推進するため、「島根大学オープンアクセス方針」を策定し公開した。オープンアクセスとは、学術論文等をインターネット経由で誰もが制限なく閲覧可能な状態にすることを指す。この方針では、本学研究者が発表した学術論文等を、附属図書館が運営する島根大学学術情報リポジトリ（愛称：SWAN）を通じて積極的に公開していくことが明記されている。

オープンアクセス化により、研究成果への平等なアクセスが実現するだけでなく、その共有と活用が進むことで、さらなる学術研究の発展やイノベーション創出の促進などが期待できる。

島根大学オープンアクセス方針（全文）

URL: <http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/ja/page/OApolicy/>

島根大学学術情報リポジトリ（愛称：SWAN）

URL: <http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/ja>

【2018年5月】



附属図書館職員が日本医学図書館協会奨励賞を受賞

附属図書館職員が日本医学図書館協会の機関誌『医学図書館』に掲載した論文が、2017（平成29）年度の日本医学図書館協会奨励賞を受賞した（2018年5月の総会にて受賞）。

当該論文は、附属図書館が2017（平成29）年5月に公開した、初学者向けにデータベースの特徴や使い方を説明するWebサイト「来たぞ！データベース戦隊！」の制作過程を紹介したものである。このサイトでは、学生に対してより深く印象付けを行うため、学内でよく利用されるデータベースについて、「戦隊もの」をイメージしキャラクター化して漫画で表現している。

若手職員の構想を受け止めて組織的に推進した点、複数のデータベースの特徴を学生に押さえてもらうという課題解決に取り組んでサイトを完成させた点、データベースのキャラクター化とそれに伴う著作権処理を行った点などが評価され、今回の受賞につながった。2018（平成30）年6月5日には、服部学長への受賞報告も行った。

【2018年5月】



受賞対象：佐藤陽子「初学者向けデータベース紹介サイト「来たぞ！データベース戦隊！」制作記」
医学図書館. 64（4）, pp219-223, 2017.12

■「学ぼう! 留学生と日本語で話すコツ」を開催

本学国際交流センターと共催で、留学生をはじめとした外国の方と日本語で話すコツを学ぶ講習会を2回開催した。

講師の松田みゆき氏（まつえりあ日本語ボランティアグループ代表）からは「やさしい日本語」という概念が紹介された。「やさしい」は「易しい」と「優しい」の二つの意味があり、相手が外国の方であっても、多少の配慮や言い換えで日本語でもコミュニケーションがとれる場合があることを、具体例を交えながら、分かりやすく説明いただいた。合計43名が参加し、熱心に講義に聞き入っていた。

日時：2018（平成30）年5月16日（水）※学生向け
2018（平成30）年8月22日（水）※教職員向け

場所：附属図書館（本館）3階多目的室

【2017年5・8月】



■附属図書館が国立大学図書館協会賞を受賞

附属図書館は、山口大学図書館とともに、2018（平成30）年度の国立大学図書館協会賞を受賞した。この賞は、同協会の会員館に所属する者で図書館活動や図書館・情報学研究に顕著な業績をあげた個人またはグループを表彰するものである。

今回の受賞は、2011（平成23）年度に始めた「大学図書館の学生協働交流シンポジウム」を継続的に実施したことで、全国に波及させた点、学生の主体的活動を促進させキャリア教育推進の一助となるなど大学において図書館の存在価値を高めることに寄与した点が高く評価された。

附属図書館の同賞受賞は、2007（平成19）年度、2014（平成26）年度に続く3度目となる。2018（平成30）年6月22日には、服部学長への受賞報告も行った。



受賞対象：交流シンポジウム開催による図書館学生協働活動の活性化／「大学図書館の学生協働交流シンポジウム」実施担当職員グループ（山口大学、島根大学）

【2018年6月】

■第14回蔵書リユース市を開催

本館で恒例行事となっている蔵書リユース市を開催した。重複等を理由に不用となった図書の再利用を目的に、大学生協の協力のもと毎年開催している。1日目は本学の学生・教職員、2日目以降は一般市民も対象とし、各日とも多くの来場者で賑わった。提供した約5,000冊のうち、およそ半数が購入された。

日時：2018（平成30）年7月9日（月）～11日（水）
場所：松江キャンパス大会館3階 大集会室

【2018年7月】



■総合博物館「#カিজュウ展」との連携企画を実施

本学総合博物館で開催された「#カিজュウ展」との連携企画として、期間限定で附属図書館内に小・中学生のための自由研究のスペースを設けた。関連イベントとして、期間中の2日間（8/17、8/23）は、来館した小・中学生を対象にバックヤードツアーも実施し、普段見られない貴重資料室や積層書庫、事務室などを案内した。

日時：2018（平成30）年8月16日（木）～24日（金）
場所：附属図書館（本館）1階ラーニングcommonsほか

【2018年8月】



■ インターンシップの学生受け入れ

附属図書館で、2018（平成30）年8月、インターンシップを希望する学生1名（法文学部3年生）を受け入れた。5日間という短い期間ではあったが、閲覧業務の他、図書・雑誌の受入、リポジトリへの論文データ登録、文献複写を含む他館との相互貸借など様々な業務を体験してもらった。インターンシップ生は、分からない点は積極的に質問し、きちんと理解しながら丁寧に作業を進めていた。

最終日には、インターンシップでの体験を踏まえて、島根大学への提言をプレゼン形式で発表してもらった。

【2018年8月】



■ 中学生の職場体験受け入れ

本館では、2018（平成30）年10月、4日間にわたり松江市立湖南中学校から職場体験の生徒2名を受け入れ、図書の返却作業、カウンター業務、図書のラベル貼りなどを体験してもらった。

医学図書館でも、同年9月、出雲市立第二中学校及び第三中学校の生徒をそれぞれ3日間にわたり2名ずつ受け入れた。雑誌や図書の受入ではパソコン操作を覚えるのに苦労していたが、資料を丁寧に扱ってくれていたのが印象的だった。また体験で得た気づきを活かして利用者向けポスターを制作・展示してもらった。

【2018年9月・10月】



■ 附属図書館職員が国立大学図書館協会シンポジウムで事例報告

「大学図書館デジタルアーカイブの活用に向けて」をテーマに開催された平成30（2018）年度国立大学図書館協会シンポジウムにおいて、附属図書館職員が、画像共有のための新しい国際規格として注目を集めるIIIF（トリプルアイエフ）に対応したデジタルアーカイブ再構築について事例報告を行った。

IIIFに対応したのは、公開時点において、国立大学図書館では京都大学に続いて2例目であった。IIIFに対応することで、他機関の所蔵する古文書や古地図の画像データと並べて比較したり、コメントやタグをつけて共有したりできるなど、デジタル画像を使った学術研究の発展への貢献が期待できる。



日時：2018（平成30）年10月19日（金）

場所：神戸大学百年記念館（神大会館）六甲ホール

発表者及び演題：青柳和仁「IIIF対応によるデジタルアーカイブの再構築」

【2018年10月】

■ 英語多読強化キャンペーンを実施

中国・四国地区の国立大学図書館との連携企画として「英語多読強化キャンペーン」を実施した。

参加者には、隔月ごとに設定されている目標に挑戦してもらい、達成数に応じて各大学の図書館グッズをプレゼントした。キャンペーン期間中には、館内で英語本の特集コーナーを設けるなど利用を促した。

参加者アンケートでは、「多読を始めるきっかけとなった」や「英語を読む力が上がった」などの感想があり、参加者の英語学習を支援するというキャンペーンの目的を一定程度達成できた。

実施期間：2018（平成30）年10月1日（月）～

2019（平成31）年1月25日（金）

共同実施：鳥取大学、岡山大学、広島大学、山口大学、
徳島大学、高知大学

【2018年10月～2019年1月】



■全国遺跡報告総覧、行政機関向けの説明会を全国で開催

附属図書館がプロジェクト事務局をしている埋蔵文化財の発掘調査報告書の書誌・全文データベース「全国遺跡報告総覧」について、全国5ブロックで行政機関等の埋蔵文化財担当者向けの説明会を開催した。この事業は、利用需要は多いものの、少数発行で入手しにくい発掘調査報告書の利活用促進を目的としている。「全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト」（代表機関：島根大学附属図書館）からコンテンツを引き継ぎ、2015（平成27）年6月より国立文化財機構奈良文化財研究所が運用しており、登録コンテンツ数、利用件数ともに順調に伸びている。

説明会は、参加機関のさらなる拡大を企図したもので、文化庁の

担当調査官らによる講演のほか、附属図書館職員も参加手続きや著作権に関する説明などを行った。5回で計200名が参加した。

場所（時期）：京都府（10月）、福島県（11月）、石川県（12月）、埼玉県（1月）、大分県（2月）

〈全国遺跡報告総覧の現況〉（2018年度末時点）

登録データ件数（PDF）23,101件 報告書書誌登録件数 48,694件
発行機関数 1,273機関 ダウンロード件数 141万件（2018年度）

【2018年10月～2019年2月】

■英語論文投稿セミナーを開催

本学研究推進室と共催で、大学院生や教員を主な対象とした英語論文投稿セミナーを開催し、松江・出雲両キャンパスで計70名が参加した。Web of Science（WoS）の提供元であるクラリベイト・アナリティクス社から講師を招き、WoSを活用しながら英語論文作成・投稿プロセスをより効率的に行う方法を学んだ。論文の投稿先の選定や引用すべき論文の選び方などのコツについて分かりやすく説明され、質疑応答も活発に行われた。

日時：2018（平成30）年12月4日（火）

13：30～15：00（松江キャンパス）18：00～19：30（出雲キャンパス）

場所：総合情報処理センター2階第2実習室（松江）・医学部看護学科棟2階情報科学演習室（出雲）



【2018年12月】

■しまね地域資料リポジトリGO-GURaをリニューアル

本学の「地（知）の拠点整備事業」の一環として構築した「しまね地域資料リポジトリ」（愛称：GO-GURa）のシステム改修を行った。GO-GURaは、地域資料の「集積と保存」「公開と活用」のための環境を整備し、誰もが参画できるWEB郷土資料室を目指しており、県内の行政機関や各種団体が発行した報告書など多様なコンテンツが搭載されている。

今回の改修では、全体のデザインを修正したほか、検索機能と操作性を向上させている。

【2019年2月】



しまね地域資料リポジトリ（愛称：GO-GURa）

URL: <http://coc.lib.shimane-u.ac.jp/ja>

■長期休業中の小中学生への施設開放を試行実施

本館において、本学の長期休業期間における小中学生への施設開放を試行的に行った。所蔵資料の閲覧を目的とした図書館利用はこれまで年齢にかかわらず可能であったが、今回の試行期間中は持ち込み資料による自学習も認めた。自宅以外に自学習できる場所が少ない、地域の子供や学内構成員の子供に対して学習環境の提供を行うことを目的としている。

期間中は、教育学部1,000時間基礎体験学修の学生ボランティアを配置した。短い期間ながらも、のべ57名の小中学生の利用があった。



日時：2019（平成31）年3月25日（月）～29日（金）

場所：附属図書館（本館）1階ラーニングcommons

【2019年3月】

図書館コンシェルジュの活動

「図書館コンシェルジュ」とは、学生スタッフが職員と協働し、附属図書館におけるピアサポートを進めるとともに、学生の視点によるサービスの改善などを目的とする取り組みである。こうした取り組みは広く学生協働と呼ばれ、本学では、本館において、教育推進センター（2019年度より大学教育センター）の協力のもと全学のピアサポートプログラム（正課PSP）の一環として、2010（平成22）年度より実施している。2018（平成30）年度は前年度からの経験者19名を含む25名が図書館コンシェルジュとして活動した。前年度に引き続き「自主企画活動」および「利用サポート活動」の二つを柱としながら、チームビルディングやビジュアルデザイン、ファシリテーションなどの考え方やスキルを習得するための様々な研修も行った。

1. 基本的な活動

(1) 利用サポート活動

利用サポート活動は、主にサービスカウンターにおいて図書館の使い方や資料の探し方など利用者からの質問等に対応するもので、正課PSPによる予算支援を受けている。担当は、授業時間帯に合わせてローテーションしている。

コンシェルジュが対応することで、図書館の利用者、特に学生に対して質問しやすい環境を提供するとともに、コンシェルジュの学生自身にとっても、自身の知識を増やしスキルを高める機会となっている。

月	活動可能日数	(A) 活動可能コマ数	(B) 活動したコマ数	実施率 (B/A)	(C) 質問件数	コマ当たり質問件数 (C/B)
4月	6	30	25	83.3%	43	1.7
5月	21	105	81	77.1%	100	1.2
6月	21	105	77	73.3%	64	0.8
7月	21	105	52	49.5%	34	0.7
8月	8	40	1	2.5%	1	1.0
10月	13	65	35	53.8%	49	1.4
11月	21	105	70	66.7%	52	0.7
12月	17	85	58	68.2%	29	0.5
1月	18	90	45	50.0%	29	0.6
2月	4	20	3	15.0%	1	0.3
合計	150	750	447	59.6%	402	0.9

利用サポート実施状況 2018（平成30）年度

実施にあたっては、利用者に対して一定レベルのサービスが提供できるよう、レファレンス研修を行っている。この研修は2段階にレベル分けしており、レベル1は館内の基本的な資料配置や施設の案内ができること、レベル2はデータベースも用いて利用者に資料情報を提供できることを到達目標としている。研修は6月と11月に行った。

(2) 自主企画活動

自主企画活動とは、コンシェルジュが自主的に企画を立案し実行するものであるが、必要に応じて職員が適宜アドバイスやサポートを行う。2015（平成27）年度以降、全体を「イベントチーム」「展示・グッズチーム」「広報チーム」という3つのチームに分け、それぞれのチームの特性に応じた企画を実施している。2018（平成30）年度の企画内容は以下の通りである。

〈イベントチーム〉

- ・ラーコモカフェの開催
 - 第8回（6/27） ゲスト：島大Spirits!メンバー
テーマ：地方ローカル線は今・・・
 - 第9回（11/28） ゲスト：海外留学経験のある学生
テーマ：行くと分かる！ ホントの海外って？
 - 第10回（1/9） ゲスト：野崎明彦先生（本学障がい学生支援室教授）
テーマ：障がい者支援はなぜ必要なのか？

- ・ただ日本語で話すだけ（4月～12月、のべ参加者115名）
- ・ライブレター（投書箱）の運用
- ・Twitter（アカウント：@shimat_con）の運用

〈展示・グッズチーム〉

- ・ブック★コンパス（図書のテーマ展示）（5回）
- ・ブックカバー作成・設置
- ・館内飾りつけ（七夕／ハロウィン／冬 等）

〈広報チーム〉

- ・季刊広報誌LiMeの編集・発行（3回）
- ・LiMeボード（手書きホワイトボード）による広報（随時）

〈チーム横断企画〉

- ・松江市立中央図書館の団体貸出図書の選書・展示（3回）
- ・オープンキャンパス企画（8/4～8/5）

2. その他の活動

(1) 研修

- 以下のような様々な研修を行った。
 - ・「学ぼう！留学生と日本語で話すコツ！」講習会（5/16）
 - ・チームビルディング合宿研修（6/9～6/10）
 - ・ビジュアルデザイン基礎講座（6/20、6/27）
 - ・ファシリテーション研修会（9/28）

「学ぼう！留学生と日本語で話すコツ！」講習会は、松田みゆき氏（松江市内で外国人向け日本語教室を主催する「まつえりあ日本語ボランティアグループ」の代表）をお招きし、留学生と日本語で話すときのコツや心構えについてレクチャーを受けたものである。この講習会には、カウンターで留学生を含む利用者対応を行ったり、留学生と日本語で話すイベント「ただ日本語で話すだけ@ラーニング commons」に参加したりしているコンシェルジュを中心に、本学の学生や留学生17名が参加した。



「学ぼう！留学生と日本語で話すコツ！」講習会

「チームビルディング合宿研修」は、コンシェルジュのチームビルディングを目的として、島根県立青少年の家（サン・レイク）で1泊2日の研修を行ったものである。荒川長巳先生（本学名誉教授）を講師に、ゲームやワークショップを行ってメンバーの結束を高めた。9名の学生と5名の職員が参加し、学生同士だけでなく、学生と職員の交流が生まれる貴重な機会となった。



チームビルディングを学ぶ合宿研修

「ビジュアルデザイン基礎講座」は、高須佳奈先生（本学講師）に講師を依頼し、本学の学生と教職員を対象にポスターやプレゼン資料を作成する際のコツを教授していただいたものである。この講座は2回に分けて行われ、1回目は21名、2回目は8名が参加した。1回目は、プレゼンテーションソフトを使って、見栄えがよだけでなく「伝えたいこと」が伝わりやすいポスター等の作成方法を教わった。2回目は、参加者作成のポスター等を、講師のアドバイスのもと、よりよいデザインになるようブラッシュアップした。



ビジュアルデザイン基礎講座

「ファシリテーション研修会」は、合宿研修と同様に荒川先生に講師を依頼し、島根大学生協との共催で本学の学生、附属図書館職員、生協職員を対象に参加を呼びかけ、28名が参加した。ファシリテーションとは、会議を活性化させ、かつ効率的に進めていくスキルである。これから社会に出ていく学生には必須のスキルといえ、参加した学生は熱心に取り組んでいた。



ファシリテーション研修会

(2) ABDの開催

本学では、学生が自主的に企画したプロジェクトに対し経費を支援する事業「プロジェクトS」を行っており、2018（平成30）年度はコンシェルジュの学生が応募し、採択された。コンシェルジュのプロジェクトでは、島根県立大学学生図書委員や地域の人々との交流を目的とし、ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）というイベントを開催した（11月17日）。

ABDとは一種の読書会であるが、事前に本を読んできてくる必要がない点に特徴がある。開催当日は、参加者全員で1冊の本を分担して読み、各自が読んだ部分の要約を他の参加者に対して発表し、共有する。全ての参加者が本の内容を理解した上で、その内容について参加者同士で対話を行う流れとなる。短時間で本の内容を理解できるという効率性を重視した読書法の提案というより、対話を通じた能動的な気づきや学び、新たな関係性の構築にも主眼を置いた企画となっている。

ABDの運営スキルを習得するため、事前に、県立大学の学生図書委員と合同で合宿研修も行った（11月3～4日）。



合宿研修（ABD）



ABD当日

当日は13名が参加し、『嫌われる勇気』（岸見一郎、古賀史健著）を題材として取り組んだ。実施後に行ったアンケートでも満足度が高く、有意義なイベントとなった。

(3) 大学図書館学生協働交流シンポジウムへの参加

このシンポジウムは、全国の大学図書館で活動する学生協働スタッフが各大学の取り組みを共有し、交流する場として2011（平成23）年より毎年開催されている。2018（平成30）年度は広島大学で9月6日（木）～7日（金）に行われ、43大学から198名が参加した。本学からは学生3名、職員2名が参加している。

(4) しまね大交流会への参加

12月15日（土）、くにびきメッセ大展示場にて「しまね大交流会」が開催され、コンシェルジュがポスター展示と活動紹介のプレゼンテーションを行った。このイベントはオールしまねCOC+事業の一環として開催されており、コンシェルジュは毎年参加している。

■ 地域コミュニティラボ —地域の情報を発信する展示スペース—

地域コミュニティラボは、オールしほねCOC+事業の「しほねクリエイティブラボネットワーク」の一つとして、附属図書館本館の展示室を利用して2017（平成29）年1月に開設したものである。地域では、地元企業や行政機関、NPO法人など様々な団体が多彩な活動を行っており、これらの団体の活動状況や成果を、学生や大学を訪れた市民が大学内において身近に触れることができる場が地域コミュニティラボである。ラボの展示をとおして、本学の学生・教職員や市民がこれまで以上に地域に目を向けて、地元の各種団体の活動に関心をもつきっかけとなり、活動を身近に知ってもらうことを目的としている。2018（平成30）年度は、5回のラボ展示を行い、延べ3,199人の来場者があった。

1. 「松江と茶の湯文化

—不昧公200年祭記念企画展—（出展者：松江市）

(1) 展示期間

2018（平成30）年4月17日（火）～5月1日（火）

(2) 展示内容

今も松江の人々の暮らしに息づいている茶の湯文化の隆盛の基礎をつくった松江藩第七代藩主松平治郷（号：不昧）の没後200年を記念するイベントの一つとして開催されたもので、初めて松江に住むことになった県外出身の学生にも松江の茶の湯文化に親しんでもらうことを目的として企画された。



不昧公の事績や、江戸時代に使われた茶道具などのほか、牡丹や菊の花をかたどった和菓子や、野点で使われた茶道具セット、若い人たちにも気軽に抹茶を楽しんでもらえるようにデザインされた抹茶茶碗セットなど多彩な内容の展示が行われた。



また、図書館コンシェルジュは、この企画展に合わせて、不昧流茶道部と合同でお茶会を開催した（大学会館和室）。参加した学生たちは、茶道部員のお点前を楽しむとともに、お茶のたて方を体験した。



2. 「島根半島四十二浦巡り

—再発見される半島の歴史—

（出展者：島根半島四十二浦巡り再発見研究会）

(1) 展示期間

2018（平成30）年5月12日（土）～6月3日（日）

(2) 展示内容

島根半島の四十二の浦々の神仏や社寺を、心身を浄めながら巡る「四十二浦巡り」の巡礼が江戸時代に盛んに行われていた。この「四十二浦巡り」の歴史を再発見し、その意義を現代に問う活動をしている「島根半島四十二浦巡り再発見研究会」により、四十二浦巡りの歴史と島根半島の自然や風土を、諏訪神社に奉納された「雲州四十二浦之詠歌」の額や関連する民俗資料、写真パネルによって紹介された。

3. 「生誕150周年 能海寛」展（出展者：能海寛研究会）

(1) 展示期間

2018（平成30）年11月16日（金）～29日（木）

(2) 展示内容

日本人で初めてチベット（西藏）に達した浜田出身の学僧・能海寛の生誕150年を記念して、能海の生涯と思想を紹介することを目的として開催されたものである。激動の明治期に仏教の源流を見極めようとした能海の志や、世界に通用する宗教として仏教を捉えようとした努力とその行動は現代でも高く評価されている。



能海の生涯とチベットにおける足跡をパネルや当時の新聞記事でたどるとともに、能海の著作物や能海の遺品のモンゴル文字の掛軸などが展示された。

また、能海寛研究会会長である岡崎秀紀氏による講演会が開催され、能海の思想と生き方についての理解を深めることができた。



4. 「お城の動物園—松江城の今昔—」

(出展者：生きもののわ)

(1) 展示期間

2018 (平成30) 年12月5日 (水) ~24日 (月)

(2) 展示内容

松江城の城山公園は、かつて動物園や茶店があり、市民に親しまれる憩いの場所であった。本展は、最後の鳥小屋が撤去されてから20数年が経過し、人々の記憶から動物園の存在が消えつつある中で、松江城の動物園にまつわる人々の思い出を掘り起こして共有することを目指した市民参加型の展示として企画された。

展示では、江戸城にあった動物園などお城と動物園の関わりや、明治期に盛んに開催された博覧会に動物園も置かれたことなど、動物園の歴史が分かりやすく紹介された。松江城の動物園については、その成り立ちから終焉までを、松江市に残されていた動物小屋の図面や、1938 (昭和13) 年に開催が計画されたものの実現しなかった幻の「神国大博覧会」の鳥瞰図などの資料を使って詳しく紹介された。



来場者を交えて展示を見ながらの談話会も開催され、松江城の城山公園にまつわるそれぞれの思い出が語られた。展示を見た市民からも資料や情報の提供があり、当初計画していた市民参加型の展示が実現した。



5. 「さの子さん、上方を旅する—江戸の旅事情—」

(出展者：出雲文化活用プロジェクト)

(1) 展示期間

2019 (平成31) 年1月12日 (土) ~27日 (日)

(2) 展示内容

出雲市大社町の美術館、手銭記念館のコレクション展として開催したもので、手銭家に残る記録資料をもとに、江戸時代の旅事情が紹介された。本学での同館コレクション展は、今回で3回目となる。

出雲大社の門前町大社で造り酒屋を営む傍ら町役や藩の御用宿などを勤めていた手銭家には、和歌や俳諧などの文学関係資料や様々な文書が伝来している。これまでの調査・研究によって、江戸時代の大社地域は和歌や俳諧の活動が盛んで「出雲歌壇」ともいべき

ものが形成されており、手銭家がそれに深く関わっていたことが分かってきた。手銭家の七代当主の妻である手銭さの子も和歌・俳諧に秀で、当時の歌集や句集に多くの作品が採録されている。

本展は、「さの子さん」が、万延元年 (1860年) に、長年の念願であった上方・伊勢方面に旅に出たときの模様を、手銭家の歴代当主が書き継いできた『萬日記』に残された記録をもとにたどったものである。その時の旅の行程表や宿のリスト、「さの子さん」が実際に買い求めたお土産、当時のガイドブックなどのほか、手銭家に宿泊した伊能忠敬に関する記録資料や当時の地誌、紀行文などの旅と繋がる書籍も展示され、江戸の旅事情を彷彿とさせる展示となった。



また、手銭記念館学芸員の佐々木杏里氏によるギャラリートークも開催され、来場者は展示資料の理解を深めることができた。

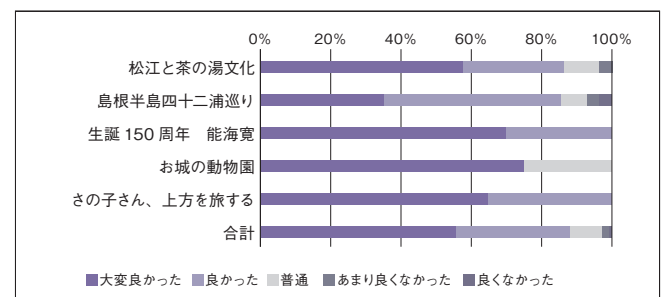


6. 来場者数及びアンケート結果

各展示の来場者数及び1日平均来場者数は次の表のとおりである。

展示名称	展示 日数	来場 者数	1日平均 来場者数
松江と茶の湯文化	15	779	51.9
島根半島四十二浦巡り	23	625	27.2
生誕150周年 能海寛	14	892	63.7
お城の動物園	20	650	32.5
さの子さん、上方を旅する	16	253	15.8
合計	88	3,199	36.4

また、満足度を尋ねたアンケートの集計結果を次のグラフに示す。全体で「大変良かった」「良かった」の合計が90%近くあり、満足度が高いことが伺える。



社会貢献 — 学術情報の提供をとおして —

附属図書館は、所蔵資料等の提供をとおして様々な形での社会貢献活動を行っている。具体的には、県内の図書館ネットワークによる図書の貸出や古典籍等の資料の展示貸出、出版物への掲載や放映のための資料提供などである。また、古典籍等の学術的資料を活用した企画展示や関連するシンポジウムを開催することによって、本学が所蔵するコレクションの価値や特長を分かりやすく紹介することにも努めている。2018（平成30）年度には、5回の企画展示を主催し、延べ2,775人の来場があった。展示会場はいずれも、本館1階展示室である。

1. 「島根大学のあゆみ」展

(1) 展示期間

2018（平成30）年4月2日（月）～12日（木）

(2) 展示内容

入学したばかりの新入生に島根大学の歴史を知ってもらうことを目的として企画したものである。1947（昭和22）年に新制大学として発足した島根大学の歴史は、1875（明治8）年に設立された小学教員伝習所まで遡ることができる。島根大学の前身校である旧制松江高等学校、島根師範学校、島根県立農科大学と新制島根大学のあゆみを写真とパネル解説でたどるとともに、前身校で使われていた教科書や、当時発行されていた文芸誌などの刊行物なども展示し、当時の学校の様子が具体的にイメージできるようにした。



2. 「イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本」展

(1) 展示期間

2018（平成30）年6月27日（水）～7月17日（火）

(2) 展示内容

医学図書館が所蔵するコレクション「西東文庫」（せいとうぶんこ）の中から、明治初期に日本を訪れた西洋人が見た日本を描いたイラストを選び、関連の書籍とともに展示したものである。「西東文庫」は、「江戸から東京へ：西洋から見た日本の近代化」をテーマとして集められた827冊からなるコレクションであり、1988（昭和63）年、当時の島根医科大学附属図書館（現在の附属図書館医学図書館）が文部省の大型コレクション予算で購入したものである。松江での「西東文庫」のまとまった展示は10年ぶりである。



展示に使用したイラストは、イザベラ・バードのUnbeaten tracks in Japan（『日本奥地紀行』）とエミール・ギメのPromenades Japonaises（『日本散策』）に掲載された日本各地の自然や風俗、文

化などを描いたイラストから、西洋人の視点がよく反映されているものを中心に選び、著者の日本に対する印象を述べた部分とともにパネルに仕立てて展示した。

その他にも、当時の日本の風俗や文化が描かれたイラストが掲載されている図書を70点余り展示し、「西洋から見た日本の近代化」をテーマとした同文庫の特徴をよく表す内容とした。

アンケートの結果を見ると、「日本の外側から見た日本が書き留められた図書がこんなにも多く、細部にわたって描かれているのが面白かった」、「西洋人視点での日本への興味のあり方がうかがえて興味深かった」など、評価する意見が多数あり、好評であった。

3. 「戦争と平和を考える2018

— 永井隆と平和への思い —」展

(1) 展示期間

2018（平成30）年7月20日（金）～8月31日（金）

(2) 展示内容

毎年開催している「戦争と平和を考える」展の2018（平成30）年度の企画展として開催したもので、生誕110年を迎えた永井隆の生涯と思想をたどることを目的として企画した。永井隆は、現在の島根県雲南市三刀屋町の出身で、旧制松江高等学校卒業後に長崎医科大学へ進学し、卒業後に同大学へ就職、1945（昭和20）年に長崎に投下された原爆により被爆した。戦後は、闘病生活を送りつつ多くの著書を著し、平和の大切さを訴え続けた。

展示では、永井の生涯と業績をパネルで紹介し、松江では広島の前爆被害ほどには知られていない長崎の被爆の実態を様々なデータを用いて紹介した。また、永井の言説（「原爆死没者は世界大戦争という人類の罪悪を償うために犠牲となった」）をめぐってなされた永井への評価を多角的に紹介し、多面性のある「永井像」を提示することで来場者が永井の実像について考える機会を提供した。なお、本展では、永井隆記念館や個人から関連資料を提供していただき展示した。

展示期間中に、企画を担当した職員によるギャラリートーク（2回）を行い、さらに、個別に依頼があった市内のカトリック教会の関係者への展示解説を行い、展示資料についての理解を深めていただいた。

アンケートでは、「様々な視点から永井さんについて知ることができて良かった」、「永井の言説についての意見を多角的に示した展示は、来場者が言説について考える上でとても役立つ」、「この企画を継続して実施していることに敬意を表する」など、評価する意見が多数寄せられ、企画の目的が達成できたとと言える。



4. 「桑原羊次郎と桑原文庫 一蔵書印からみたコレクションの成り立ち」展

(共催：島根県立美術館／桑原羊次郎・相見香雨研究会／
本学法文学部山陰研究センター)

(1) 展示期間

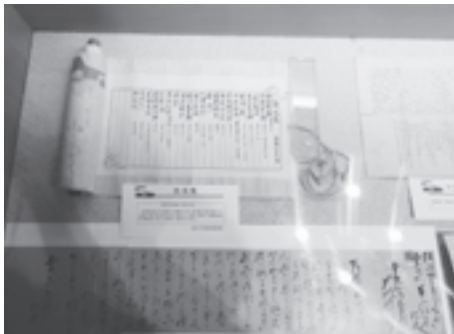
2018（平成30）年9月13日（木）～10月18日（木）

(2) 展示内容

松江出身の桑原羊次郎（1868-1955）は、実業家、社会事業家として活躍する一方で、美術工芸の研究家として多くの業績を残している。特に、肉筆浮世絵のコレクターとして、また、刀装具の研究家として国際的に名前が知られている。羊次郎の旧蔵書からなる附属図書館本館の「桑原文庫」は、羊次郎が収集した歴史、地誌、古地図、文学、美術・工芸など広範な分野の資料が含まれており、資料の蔵書印や書き込みの調査から、来歴を異にするいくつかの資料群からなることが分かってきた。

本展は、これまでの調査で分かってきた資料の来歴と主な資料を展示するとともに、漢詩サークル「剪淞吟社」（せんしょうぎんしゃ）や若槻礼次郎の後援会「克堂会」を中心とした羊次郎の人的ネットワークを示す資料を紹介した。また、桑原家より新たに寄贈を受けた羊次郎宛の書簡を集めた書簡集（『独楽集』）を初めて展示し、『独楽集』に収められた書簡の発信者名リストを公開した。なお、本展は羊次郎の生誕150年を記念して、島根県立美術館で開催された「生誕150年 桑原羊次郎」展（9月27日～11月12日）にあわせて、同時開催したものである。

「桑原文庫」を紹介する展示は、2013（平成25）年以来2度目であり、いずれも附属図書館職員が企画し実施している。



5. 「AR和歌展」

(1) 展示期間

2018（平成30）年10月20日（土）～11月11日（日）

(2) 展示内容

新しいテクノロジーと伝統的なものという異質なものの掛け合わせによる新機軸を打ち出した企画展である。新しいテクノロジーとしてAR（拡張現実）を採用し、伝統的なものとして古典資料、中でも出雲地方が発祥の地とされる和歌を採用した。

ARは、人が知覚している現実の世界に、スマートフォンなどのタブレット端末を使って、関連する別の情報を提示できる技術である。展示期間が秋だったことから、ドライフラワーにした秋の七草にタブレットをかざすと、その花を詠んだ和歌がタブレット上に表示される仕掛けである。この仕掛けによって、和歌を詠んだ人の気持ちを感じ取り、作品が作られたプロセスを追体験してもらうことを企画した。

また、本展は、和歌になじみのない人たち、特に留学生にも和歌に親しんでもらうために、和歌についての概説や江戸時代の出雲地方では「出雲歌壇」が形成され歌集や歌論が出版されるなど和歌が盛んであったことを、日本語と英語によりパネルで解説した。

アンケートでは、「AR展示ははじめてだったが、素晴らしかった。時間を忘れて楽しんだ」、「英文のキャプションが充実していておどろいた。和本の美しさ+充実のキャプション+ARどれもすばらしかった」など、評価する意見が多く、企画の目的を達成できたと言える。

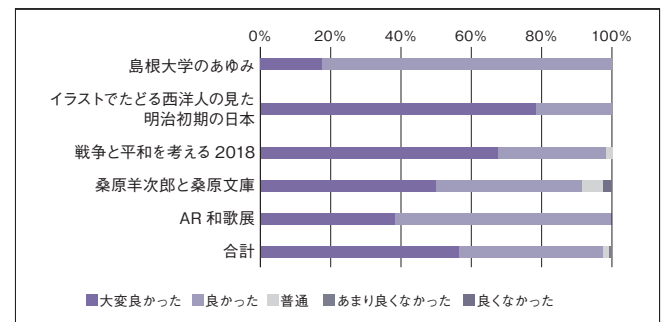


6. 来場者数及びアンケート結果

各展示の来場者数及び1日平均来場者数は次の表のとおりである。

展示名称	展示日数	来場者数	1日平均来場者数
島根大学のあゆみ	11	250	22.7
イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本	21	600	28.6
戦争と平和を考える2018	43	800	18.6
桑原羊次郎と桑原文庫	36	650	18.1
AR和歌展	23	475	20.7
合計	134	2,775	20.7

満足度を尋ねたアンケートの集計結果を次のグラフに示す。全体で「大変良かった」「良かった」の合計が97%を占めており、非常に満足度が高いことが伺える。



2018（平成30）年度の企画展示は、医学図書館の「西東文庫」、本館の「桑原文庫」という、附属図書館の主要なコレクションを紹介することができたほか、いずれの企画展においてもコレクションが持つ魅力と価値を伝えることができたのではないと思われる。今後も、附属図書館が所蔵するコレクションを紹介する展示を継続していきたい。

■ 学術情報基盤整備計画と電子ジャーナル・データベース

電子ジャーナル・データベースをはじめとした学術情報は、大学の研究活動を支える極めて重要な基盤であり、その充実には学内の大きな期待と注目を集めている。電子ジャーナルを含む学術雑誌は、商品としての特殊性や、大手出版社による寡占化の進行などにより、市場原理が働きにくい性質を有していることから、毎年6%程度もの値上がりが続いている。また、その大半が海外で出版されるため、為替差損によるリスクを不断に抱えている。

一方、我が国の高等教育財政を取り巻く状況は年々その厳しさを増しており、大学においても必要経費の確保に一層の努力と工夫が求められる状況である。

このような背景のもと、大学では、2001（平成13）年度より3年ごとに学術情報基盤整備計画（以下、「整備計画」という）を策定し、限られた財源で最大限効果的な学術情報基盤を整備すべく注力してきた。2018（平成30）年度は、第6期整備計画の最終年度として、整備計画に沿った着実な整備に努めるとともに、第7期整備計画（2019～2021年度）を策定するため、関係各所との協議を重ねた。

2019（平成31）年3月に決定した第7期整備計画では、年度ごとの具体的な行動計画を定めるとともに、予算総額の上限を設定するなど、従来の整備計画には見られなかった綿密かつ詳細な記述を行うことで、厳しい財政状況に柔軟に対応できるよう意を尽くした。

第7期 学術情報基盤整備計画（概要）

中期目標・中期計画の達成に向けて、大学の研究活動の推進・強化に必要な学術情報を継続整備するとともに、財政状況に応じた削減計画もあわせて検討する必要がある。

2019（令和元）年度

(1) 電子ジャーナル等の整備

- ・第6期整備計画における購読タイトルを継続する。

(2) 2020年度整備計画の策定

- ・導入経費は1億円を上限の目安として、電子ジャーナルの購読中止を検討する。
- ・図書館経費からの一部拠出を検討する。

2020（令和2）年度

(1) 電子ジャーナル等の整備

- ・前年度に策定した計画に沿って整備する。

(2) 2021年度整備計画の策定

- ・導入経費は1億円を上限の目安とする。
- ・前年度からの価格上昇が大きい場合は再度購読中止を検討する。

(3) 第8期整備計画（2022～2024年度）の検討

- ・アンケート、利用状況、市場動向調査などを実施する。
- ・学内関係各所との協議・調整を開始する。

2021（令和3）年度

(1) 電子ジャーナル等の整備

- ・前年度に策定した計画に沿って整備する。

(2) 第8期整備計画の策定

- ・前年度に引き続いて検討し、整備計画を策定する。

(3) 2022年度 整備計画の策定

- ・第8期整備計画に基づき、次年度の整備計画を策定する。

■ 学術情報基盤整備計画（第6期）で提供している電子ジャーナル・データベース

2018（平成30）年度

電子ジャーナル/データベース名称	タイトル数	概要	備考
Elsevier ScienceDirect	約2,200	Elsevier社発行のほぼすべての電子ジャーナル	
Wiley Online Library	約1,500	Wiley社発行のほぼすべての電子ジャーナル	
SpringerLink	約1,600	Springer社発行のほぼすべての電子ジャーナル	
Oxford Online Package	約300	Oxford University Press の電子ジャーナル	2020(R2)中止予定
JSTOR : Art Sci. I, Health & General Sci.	約150	学術雑誌バックナンバーのアーカイブ	
Nature	1	Nature Publishing Group発行の電子ジャーナル	2016(H28)本誌以外中止
PNAS	1	米国科学アカデミー発行の電子ジャーナル	
Science	1	アメリカ科学振興協会が発行する電子ジャーナル	
Cell	1	Cell Press が発行する電子ジャーナル	
Web of Knowledge (Web of Science + JCR)	—	自然科学・社会科学・人文科学の代表的なジャーナル・会議録・専門書を収録する引用文献データベース	
EJ Access Tools(Summon + 360LINK)	—	多様な電子リソースを横断的に検索可能なディスカバーサービス及び電子リソース管理ツール	
Cambridge Online Package	約300	Cambridge Univ. Pressの電子ジャーナル	2016(H28)中止
ProQuest Research Library, Health and Medical Complete	約7,000	様々な学会・出版社の発行している電子ジャーナル	2016(H28)中止
Nature(文連4誌)	5	Nature Publishing Group発行の電子ジャーナル	2016(H28)中止
New England Journal of Medicine	1	マサチューセッツ内科学会発行の学術雑誌	2016(H28)中止/部局経費で継続
RefWorks (文献情報管理ツール)	—	文献情報管理および論文作成支援ツール	2016(H28)中止

統計

■基本統計：2018(平成30)年度データ

		本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計	
開 館 日 数	平 日	232	238		
	土 ・ 日 ・ 祝 日	70	87		
	合 計	302	325		
利 用 対 象 者 数 (2018年5月1日現在)	教 職 員	3,011		3,011	
	学 生	4,953	1,170	6,123	
	学 外 者	690	114	804	
	合 計			9,938	
入 館 者 数	学 生 ・ 教 職 員	293,524	134,910	428,434	
	学 外 者	9,718	1,208	10,926	
	合 計	303,242	136,118	439,360	
貸 出 冊 数	学 生	52,431	12,258	64,689	
	教 職 員	6,191	2,432	8,623	
	学 外 者	4,437	347	4,784	
	合 計	63,059	15,037	78,096	
蔵 書 冊 数 (2019年3月31日現在)	和 漢 書	684,340	73,382	757,722	
	洋 書	157,304	66,058	223,362	
	合 計	841,644	139,440	981,084	
図 書 受 入 冊 数	和 漢 書	購 入	7,692	1,728	9,420
		寄贈・その他	3,409	109	3,518
		計	11,101	1,837	12,938
	洋 書	購 入	※264	131	※395
		寄贈・その他	※366	17	※383
		計	※630	148	※778
	合 計	※11,731	1,985	※13,716	
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌	8,778	1,832	10,610	
	洋 雑 誌	2,895	1,727	4,622	
	合 計	11,673	3,559	15,232	
雑 誌 受 入 種 類 数	和 雑 誌	購 入	493	119	612
		寄贈・その他	657	155	812
		計	1,150	274	1,424
	洋 雑 誌	購 入	62	17	79
		寄贈・その他	12	8	20
		計	74	25	99
	合 計	1,224	299	1,523	
資 料 費 (千円)	図 書	17,377	5,655	23,032	
	雑 誌	6,093	2,947	9,040	
	小 計	23,470	8,602	32,072	
	デ ー タ ベ ー ス	6,757		6,757	
	電 子 ジャ ー ナ ル 経 費 ^{*1}	105,218		105,218	
	電 子 ジャ ー ナ ル (戦 略 ^{*2})	3,553		3,553	
	合 計			147,600	
文 献 複 写 件 数	受 付	689	762	1,451	
	国 内 依 頼	1,540	963	2,503	
	海 外 依 頼	0	0	0	
現 物 貸 借 件 数	貸 出	546	22	568	
	借 受	455	10	465	

*1 学術情報基盤整備計画 (P.14参照) にかかる経費相当分

*2 戦略的機能強化推進経費

※数値を訂正 (2019.11)

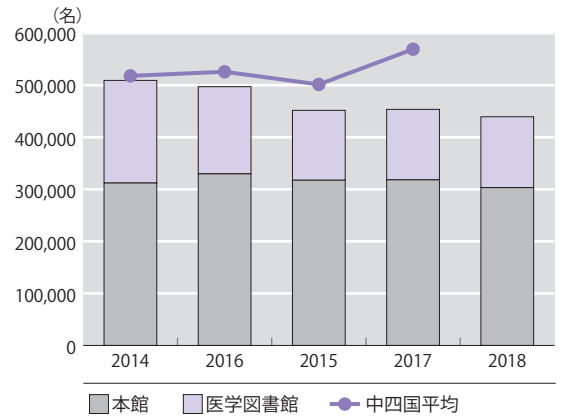
統計

利用者

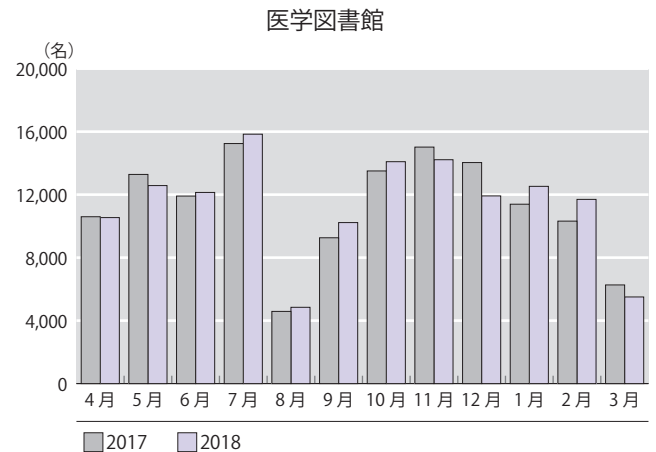
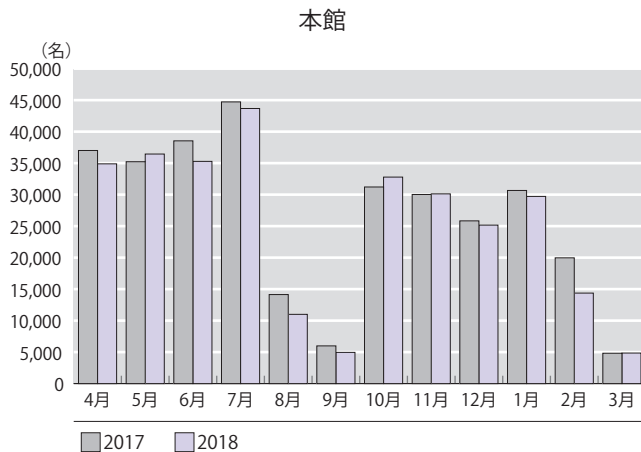
■入館者数

		2014	2015	2016	2017	2018
本館	学 生	290,934	309,620	297,697	297,613	283,452
	教 職 員	10,705	9,659	9,921	9,613	10,072
	学 外 者	10,403	10,427	9,788	10,920	9,718
	小 計	312,042	329,706	317,406	318,146	303,242
医学図書館	学生・教職員	196,834	167,042	134,017	134,075	134,910
	学 外 者	359	418	260	1,341	1,208
	小 計	197,193	167,460	134,277	135,416	136,118
合 計	509,235	497,166	451,683	453,562	439,360	
中 四 国 平 均 ^{*1}	517,860	525,830	501,500	569,170	-	

*1中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）



■月別入館者数



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本館	2017	37,008	35,227	38,539	44,722	14,135	5,988	31,213	30,024	25,836	30,663	19,969	4,822
	2018	34,888	36,445	35,280	43,675	10,994	4,956	32,784	30,123	25,161	29,717	14,368	4,851
医学図書館	2017	10,597	13,283	11,910	15,244	4,585	9,261	13,504	15,019	14,037	11,392	10,318	6,266
	2018	10,542	12,575	12,139	15,838	4,845	10,225	14,092	14,217	11,919	12,526	11,698	5,502

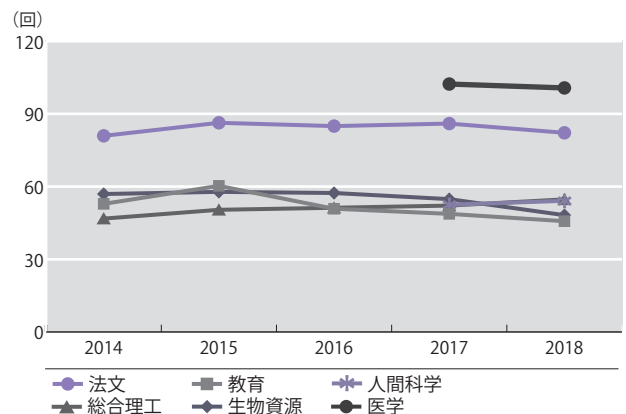
■学生1人あたりの年間平均来館回数

学部	2014	2015	2016	2017	2018
法 文	80.93	86.31	84.95	85.99	82.18
教 育	52.86	60.29	50.85	48.73	45.71
人間科学 ^{*1}	-	-	-	52.50	54.11
総合理工	46.78	50.41	51.25	52.15	54.71
生物資源	56.92	57.81	57.34	54.81	48.20
医学 ^{*2}	-	-	-	102.30	100.70

*1 人間科学部は2017年度新設

*2 医学部学生の医学図書館への入館回数。

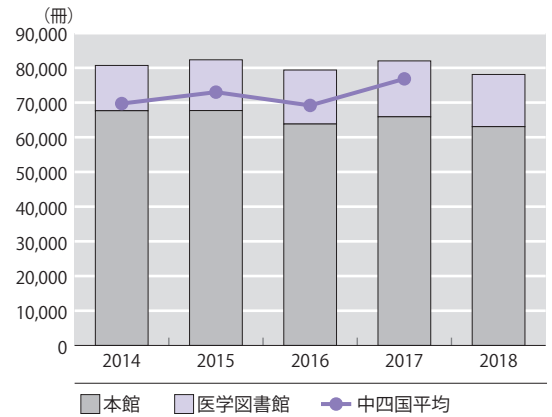
医学図書館は2017年4月3日から入館ゲートを設置。



貸出

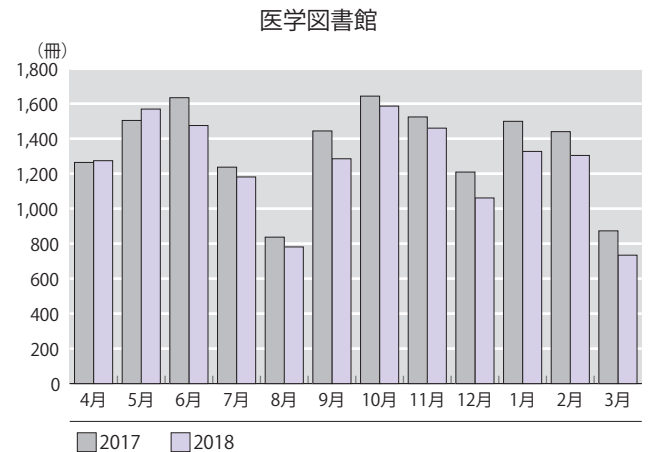
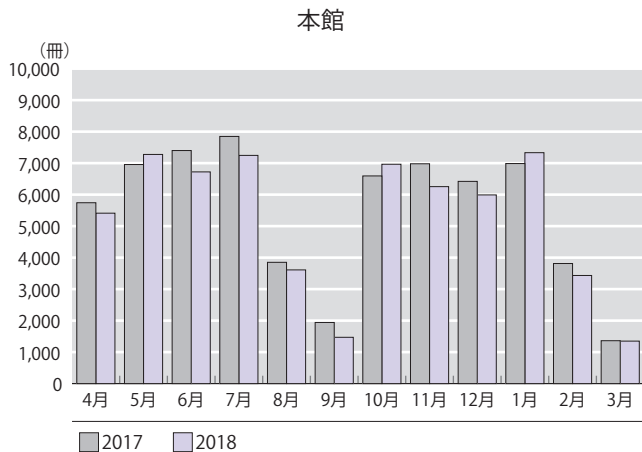
貸出冊数

		2014	2015	2016	2017	2018
本館	学 生	57,367	57,301	53,631	55,564	52,431
	教 職 員	6,015	5,851	5,598	5,809	6,191
	学 外 者	4,263	4,541	4,585	4,523	4,437
	小 計	67,645	67,693	63,814	65,896	63,059
医学図書館	学 生	11,051	12,421	12,871	13,694	12,258
	教 職 員	1,709	1,688	2,273	2,171	2,432
	学 外 者	291	518	418	243	347
	小 計	13,051	14,627	15,562	16,108	15,037
合 計		80,696	82,320	79,376	82,004	78,096
中 四 国 平 均		69,710	73,000	69,170	76,830	-



※延長貸出も回数としてカウントしている。

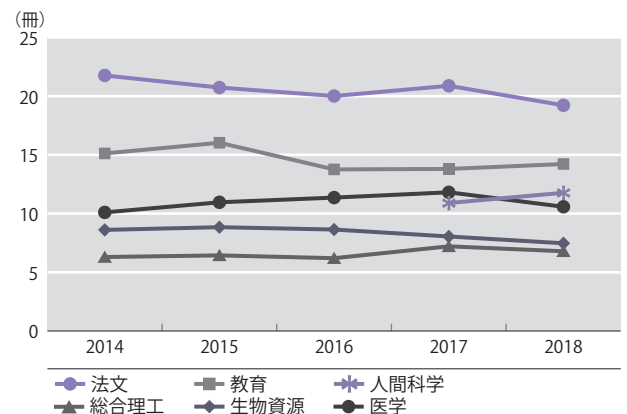
月別貸出冊数



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本館	2017	5,743	6,956	7,400	7,848	3,851	1,941	6,594	6,980	6,421	6,987	3,813	1,362
	2018	5,411	7,276	6,722	7,246	3,610	1,470	6,965	6,254	5,991	7,332	3,433	1,349
医学図書館	2017	1,264	1,504	1,634	1,237	837	1,444	1,643	1,524	1,209	1,499	1,440	873
	2018	1,274	1,569	1,475	1,181	781	1,285	1,586	1,460	1,061	1,327	1,304	734

学生1人あたりの年間平均貸出冊数

学部	2014	2015	2016	2017	2018
法 文	21.76	20.73	20.01	20.88	19.22
教 育	15.12	16.03	13.76	13.80	14.22
人間科学*1	-	-	-	10.90	11.77
総 合 理 工	6.30	6.44	6.20	7.21	6.79
生 物 資 源	8.61	8.84	8.64	8.05	7.47
医 学	10.10	10.96	11.36	11.81	10.58



*1人間科学部は2017年度新設

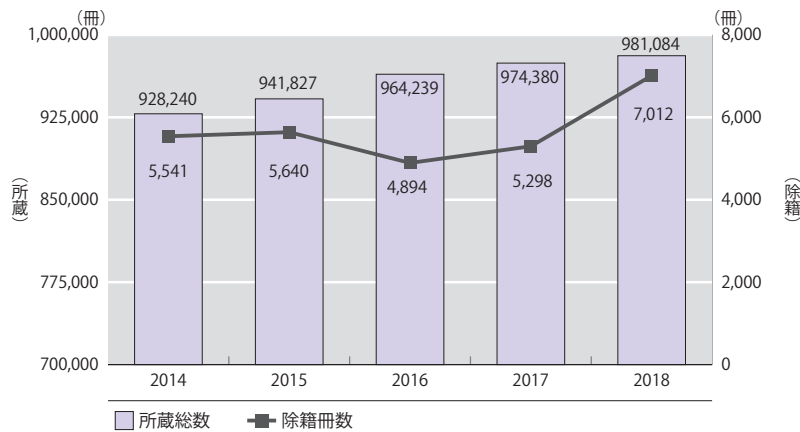
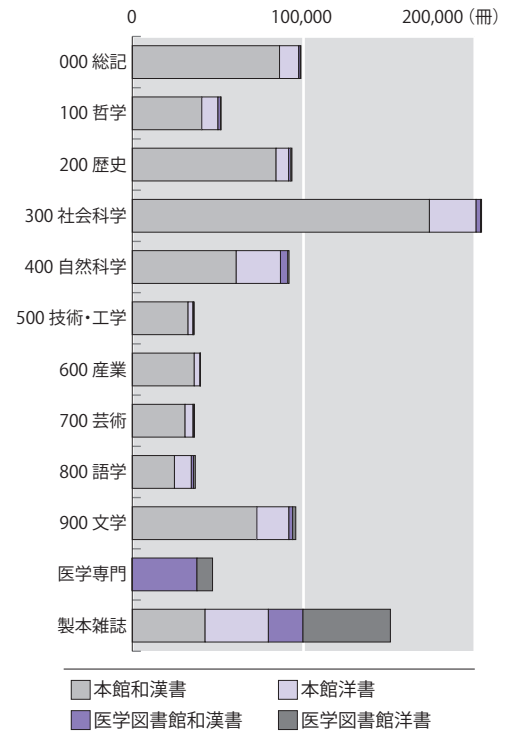
統計

図書

蔵書冊数（分類別）

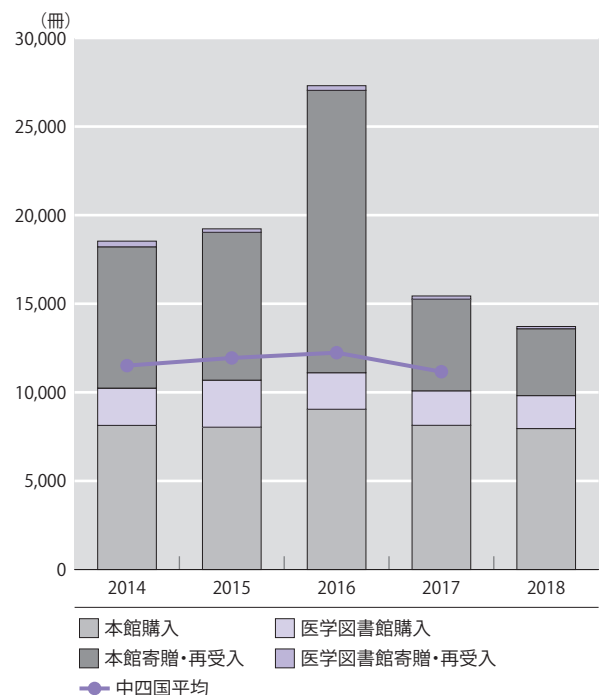
分類	本館			医学図書館			合計
	和漢書	洋書	小計	和漢書	洋書	小計	
000 総記	85,992	11,122	97,114	998	362	1,360	98,474
100 哲学	40,577	9,464	50,041	1,468	400	1,868	51,909
200 歴史	83,979	7,291	91,270	1,315	658	1,973	93,243
300 社会科学	173,513	27,282	200,795	2,597	558	3,155	203,950
400 自然科学	60,723	25,812	86,535	4,200	825	5,025	91,560
500 技術・工学	32,588	2,847	35,435	492	30	522	35,957
600 産業	36,206	3,309	39,515	293	26	319	39,834
700 芸術	30,842	4,644	35,486	632	135	767	36,253
800 語学	24,633	9,863	34,496	1,265	1,072	2,337	36,833
900 文学	72,752	18,718	91,470	2,148	1,862	4,010	95,480
医学専門	2	0	2	37,780	9,091	46,871	46,873
製本雑誌	42,533	36,952	79,485	20,194	51,039	71,233	150,718
合計	684,340	157,304	841,644	73,382	66,058	139,440	981,084

※2019年3月31日現在の数字。ただし、データ抽出は2019年5月27日のため冊数内訳に若干数の変更がある。
※視聴覚資料を含む。



受入冊数

館	種別	年					
		2014	2015	2016	2017	2018	
本館	和漢書	購入	7,219	7,152	7,855	7,281	7,148
		製本雑誌	641	460	395	530	544
		寄贈	4,859	1,492	2,304	3,392	2,618
		再受入	2,832	3,995	13,031	1,524	791
		計	15,551	13,099	23,585	12,727	11,101
	洋書	購入	275	351	651	328	264
		製本雑誌	0	70	144	0	0
		寄贈	163	115	255	207	187
		再受入	119	2,742	346	49	179
		計	557	3,278	1,396	584	630
小計	16,108	16,377	24,981	13,311	11,731		
医学図書館	和漢書	購入	1,449	1,986	1,489	1,346	1,403
		製本雑誌	390	371	380	414	325
		寄贈	169	168	162	172	97
		再受入	78	10	86	2	12
		計	2,086	2,535	2,117	1,934	1,837
	洋書	購入	150	170	98	96	80
		製本雑誌	105	128	95	91	51
		寄贈	25	13	5	7	17
		再受入	48	4	10	0	0
		計	328	315	208	194	148
小計	2,414	2,850	2,325	2,128	1,985		
合計	18,522	19,227	27,306	15,439	13,716		
中四国平均	11,508	11,941	12,238	11,164	-		
除籍冊数	5,541	5,640	4,894	5,298	7,012		
所蔵総数	928,240	941,827	964,239	974,380	981,084		



図書館資料費

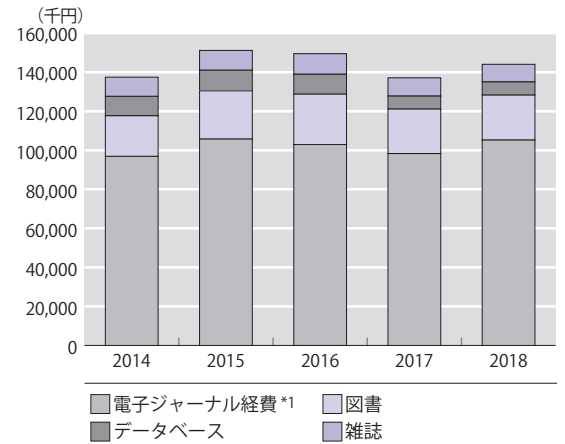
図書館資料費の推移

(単位：千円)

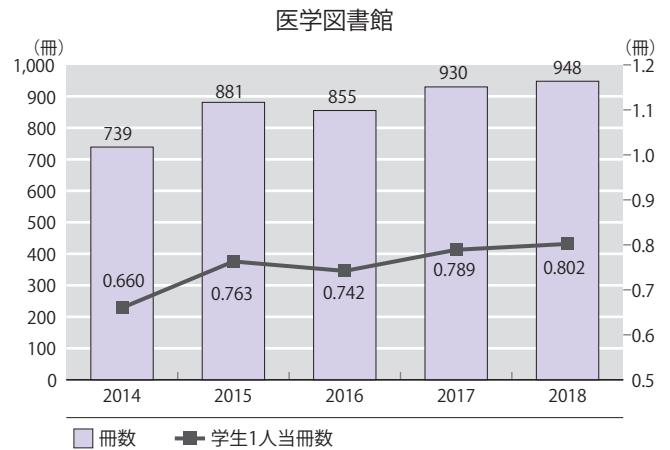
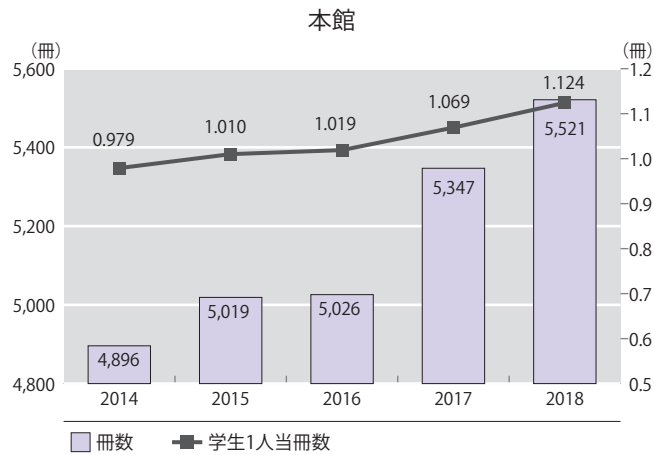
		2014	2015	2016	2017	2018
本館	図書	15,617	15,533	15,628	17,311	17,377
	図書(戦略*2)	0	2,708	5,000	0	0
	雑誌	5,720	5,800	5,840	6,286	6,093
	小計	21,337	24,041	26,468	23,597	23,470
医学図書館	図書	5,183	5,192	5,181	5,488	5,655
	図書(戦略*2)	0	1,290	0	0	0
	雑誌	4,119	4,347	4,689	3,062	2,947
	小計	9,302	10,829	9,870	8,550	8,602
データベース		9,953	10,570	10,212	6,649	6,757
電子ジャーナル経費*1		96,870	105,719	102,929	98,309	105,218
電子ジャーナル(戦略*2)		0	0	399	659	3,553
合計		137,462	151,159	149,878	137,764	147,600

*1 学術情報基盤整備計画(P.14参照)にかかる経費相当分

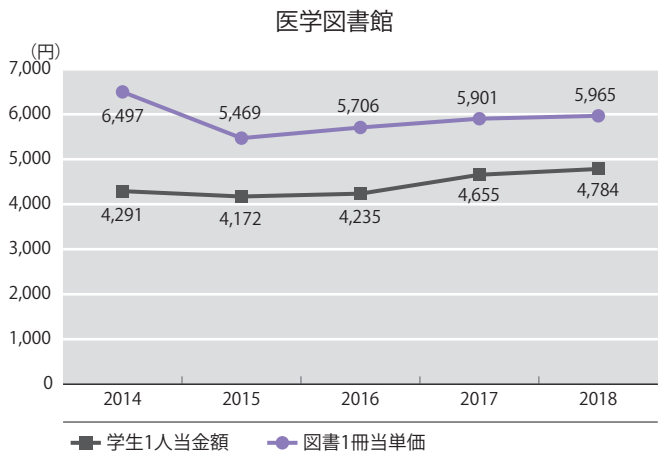
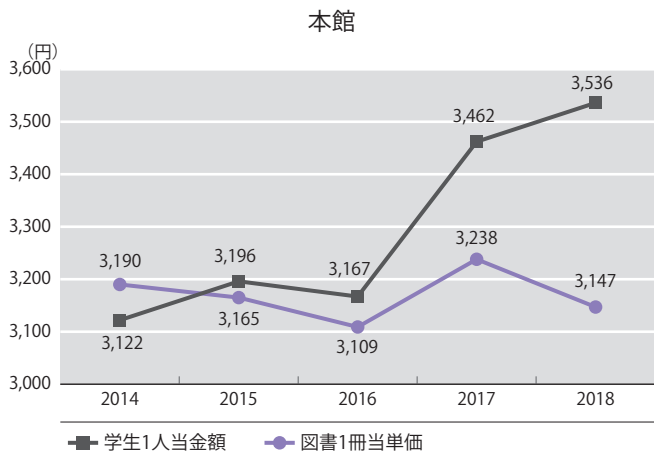
*2 戦略的機能強化推進経費分



学生用図書費



※グラフ中では比較のため、戦略的機能強化推進経費での購入分は含めていない。



※グラフ中では比較のため、戦略的機能強化推進経費での購入分は含めていない。

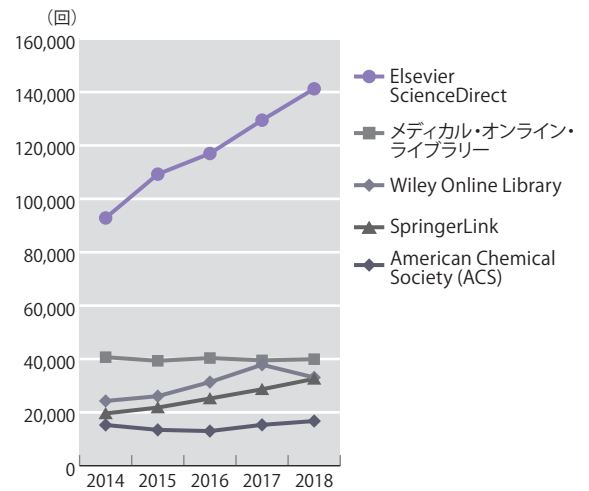
統計

電子ジャーナル・電子ブック

■主要電子ジャーナルの利用状況（ダウンロード回数）

	2014	2015	2016	2017	2018
Elsevier ScienceDirect	92,833	109,247	116,989	129,478	141,235
メディカル・オンライン・ライブラリー	40,675	39,323	40,357	39,480	39,930
Wiley Online Library	24,275	26,063	31,343	37,847	33,079
SpringerLink	19,600	21,797	25,189	28,654	32,551
American Chemical Society (ACS)	15,273	13,442	12,994	15,323	16,752
Oxford Online Package	8,201	8,218	8,820	10,614	11,158
Nature本誌	4,759	4,871	4,712	5,284	5,160
PNAS	2,390	2,559	2,703	2,257	2,504
Science	2,093	2,434	2,252	2,121	2,703
JSTOR	1,777	2,252	1,436	2,202	1,938
Cell	1,280	1,432	1,084	1,529	1,921

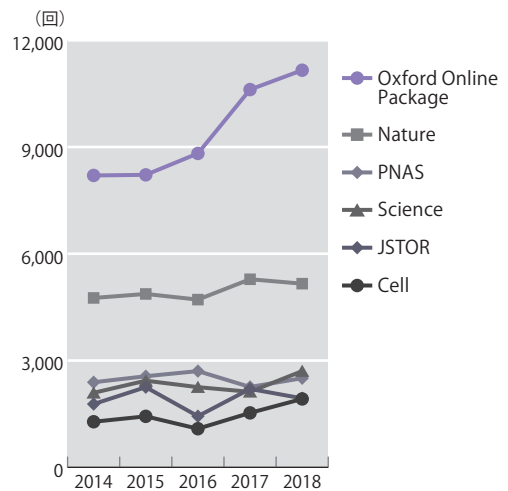
※当該年の1月～12月で集計している。



■電子ジャーナル契約タイトル数

		和洋	2018
電子ジャーナル経費 (全学共通経費等)	Cell	洋	1
	Elsevier ScienceDirect	洋	2,282
	JSTOR*1	洋	140
	Nature	洋	1
	Oxford Online Package	洋	318
	PNAS	洋	1
	Science	洋	1
	SpringerLink	洋	1,600
	Wiley Online Library	洋	1,468
	小計		5,812
図書館含む (部局経費)	American Chemical Society (ACS)	洋	52
	American Physical Society (APS)	洋	4
	British Medical Journal (BMJ)	洋	23
	Karger	洋	79
	Lippincott Williams and Wilkins(LWW)	洋	59
	Project Euclid (Prime Collection)	洋	28
	その他個別タイトル	洋	43
	メディカル・オンライン・ライブラリー	和	1,334
	その他個別タイトル	和	3
	小計		1,625
タイトル数 合計			7,437

*1 Art & Science Collection I, Health & General Science Collection



■電子ブック契約タイトル数

	和洋	2018	備考
EBSCOhost eBook Collection	和	190	
Elsevier ScienceDirect	洋	1	
Maruzen eBook Library	和	922	
メディカルオンライン・イーブックス	和	62	
Maruzen eBook Library	洋	427	主に英語多読図書
ProQuest Ebook Central	洋	25	
Springer eBooks	洋	12,142	主に数学・統計分野
タイトル数合計		13,769	

※ 2018年度時点での累積。買い切り分のみ（年間購読型は含まない）

データベース

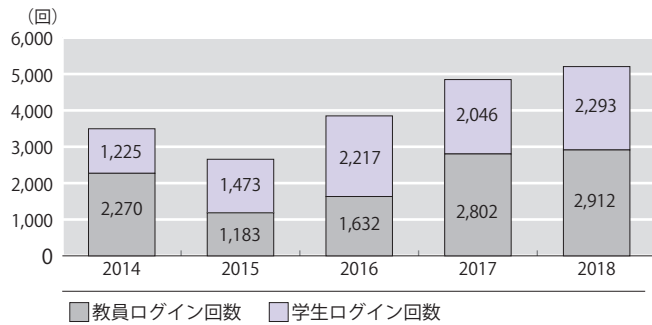
■契約データベースの利用状況

データベース名称	カテゴリ	2014	2015	2016	2017	2018	備考
CINAHL	看護学英語文献	805	1,742	449	155	702	1-12月/検索回数
Web of Science	全分野英語文献	22,415	22,878	23,597	23,877	31,124	1-12月/検索回数
Westlaw Japan	法学文献・判例	-	-	-	760	606	4-3月/ログイン回数
朝日新聞蔵II ビジュアル	新聞	3,110	2,710	2,841	2,097	2,364	4-3月/ログイン回数
医学中央雑誌Web	医学・看護学文献	66,060	60,151	65,095	63,533	71,879	1-12月/検索回数
化学書資料館	化学参考図書	2,093	3,480	4,001	2,499	2,808	4-3月/アクセス数
ジャパンレヅジ	各種参考図書等	41,504	47,684	55,440	42,018	64,650	1-12月/検索回数
日経テレコン21	新聞	9,800	11,176	10,812	7,730	5,076	4-3月/本文利用件数
ヨミダス歴史館	新聞	5,850	2,287	1,611	3,430	2,190	4-3月/検索回数
ルーラル電子図書館	農学参考図書	701	297	1,702	1,476	1,230	4-3月/記事閲覧回数
和歌ライブラリー	和歌	1,095	1,125	1,199	847	1,133	4-3月/ログイン回数
JCR: Journal Citation Reports	学術雑誌評価ツール	-	-	-	-	-	
Summon(Discovery Service)	横断検索ツール	-	-	-	-	-	

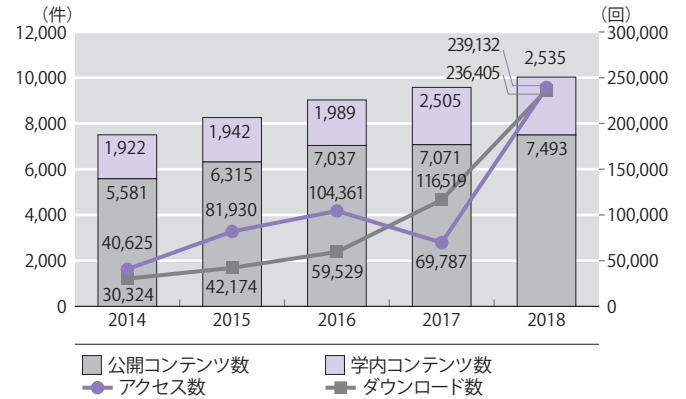
※ 電子ジャーナル経費及び図書館経費での契約分

Webサービス

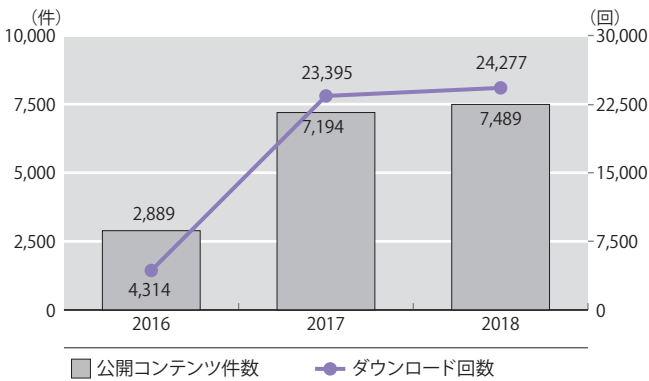
■EZproxy (リモートアクセス)



■島根大学学術情報リポジトリ (SWAN)

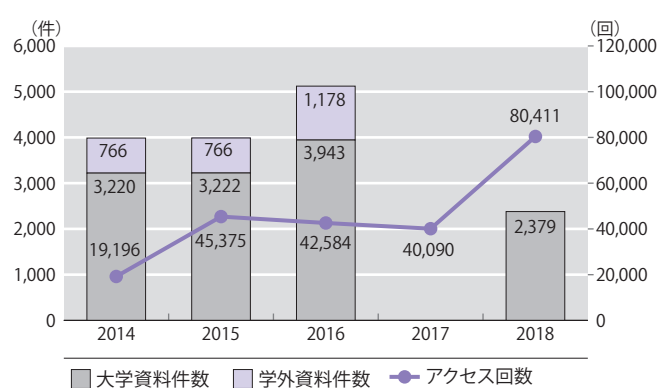


■しまね地域資料リポジトリ (GO-GURa)



※GO-GURaの公開は2016年11月1日から

■デジタルアーカイブ



※2017年度は情報セキュリティインシデント対応のため一部統計取得不可期間あり
 ※2018年1月にシステムのリニューアルオープン

■本館の『館内施設利用予約』(Web予約システム)

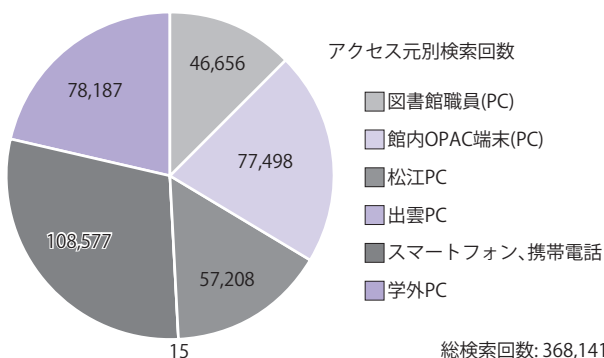
部屋名	総利用時間*1	稼働率 [%]*2	稼働率2 [%]*3
グループ学習室1	1,162時間30分	35.37	33.21
グループ学習室2	992時間45分	30.20	29.81
研究個室1	685時間30分	20.85	30.57
研究個室2	536時間15分	16.31	26.75
研究個室3	144時間15分	4.39	27.22
研究個室4	118時間15分	3.60	22.31
研究個室5	150時間45分	4.59	28.44

*1 総利用時間とは、館内施設を実際に利用した時間を累積したもの

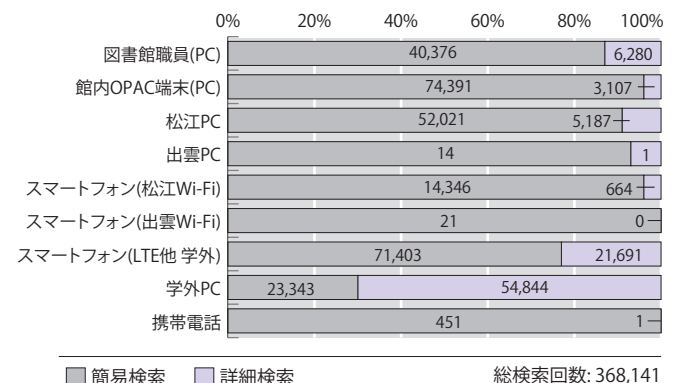
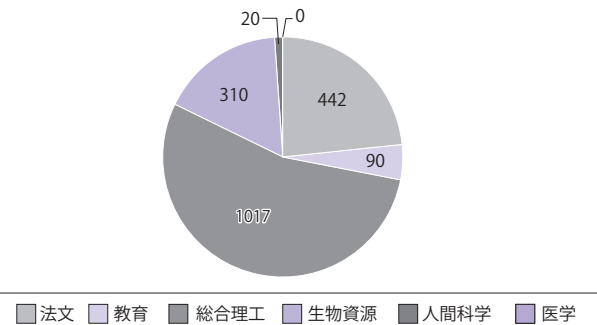
*2 稼働率とは、利用時間を本館の総開館時間(3,267時間30分)で除算したもの

*3 「稼働率2」は、研究個室3~5が予約制になった2019年1月15日以降の総開館時間(530時間)で除算したもの

■OPAC検索回数 (アクセス元別)



学部別グループ学習室、研究個室の利用回数

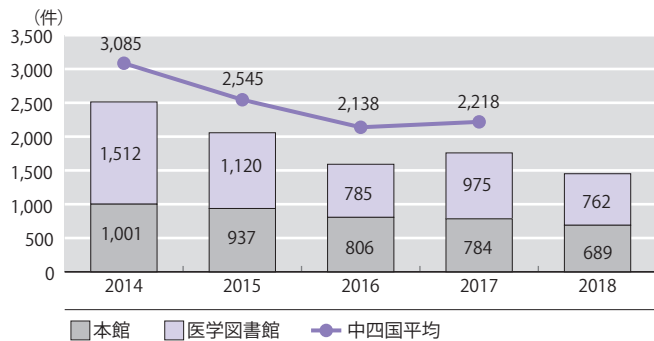


相互協力

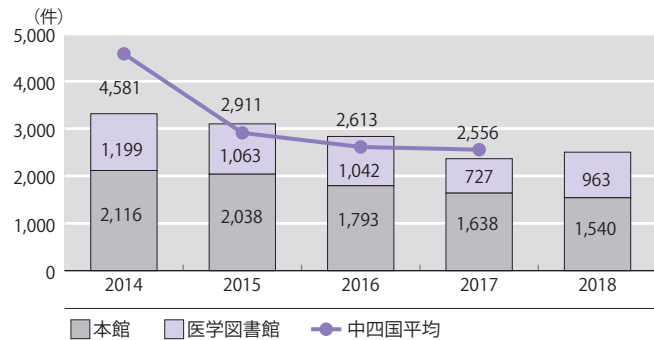
■文献複写件数

		2014	2015	2016	2017	2018
本館	受付	1,001	937	806	784	689
	国内依頼	2,115	2,038	1,793	1,638	1,540
	海外依頼	1	0	0	0	0
	依頼小計	2,116	2,038	1,793	1,638	1,540
医学図書館	受付	1,512	1,120	785	975	762
	国内依頼	1,199	1,063	1,042	727	963
	海外依頼	0	0	0	0	0
	依頼小計	1,199	1,063	1,042	727	963
中四国平均	受付	3,085	2,545	2,138	2,218	-
	依頼	4,581	2,911	2,613	2,556	-

文献複写受付件数の推移



文献複写依頼（取寄）件数の推移



■県内図書館間の相互貸借（本館）

	貸出冊数					借受冊数				
	2014	2015	2016	2017	2018	2014	2015	2016	2017	2018
島根県立大学（松江）	15	26	32	12	22	6	5	10	5	4
松江高专	0	7	17	4	3	0	1	2	0	1
島根県立図書館	14	23	23	53	33	24	10	21	23	24
県立以外の公共図書館	111	131	160	240	262	13	12	12	21	17
合計	140	187	232	309	320	43	28	45	49	46

■団体貸出

松江市立図書館コーナーの貸出回数

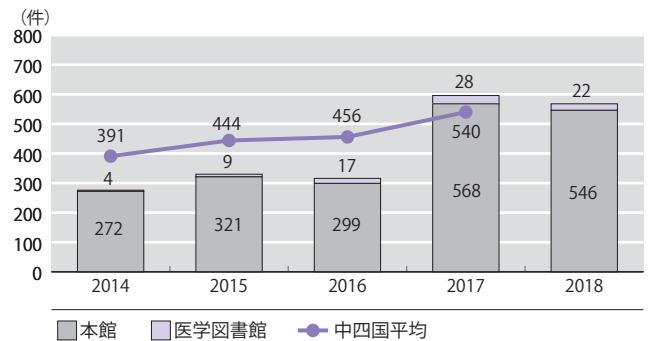
テーマ	展示期間	展示冊数	貸出回数
本屋大賞、冒険	2018年7月6日～8月24日	104	22
芸術、虫	2018年10月11日～11月30日	101	18
英語の本、教科書に載っていた懐かしい本	2018年12月13日～2019年2月4日	100	7
合計		305	47

※松江市立中央図書館からの団体貸出（図書館コンシェルジュが選書）

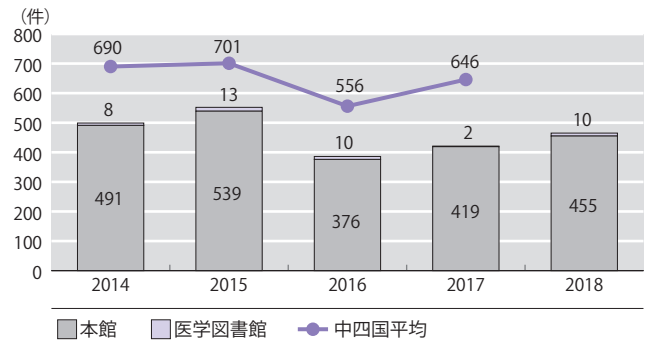
■現物貸借件数

		2014	2015	2016	2017	2018
本館	貸出	272	321	299	568	546
	借受	491	539	376	419	455
医学図書館	貸出	4	9	17	28	22
	借受	8	13	10	2	10
中四国平均	貸出	391	444	456	540	-
	借受	690	701	556	646	-

現物貸借貸出件数の推移



現物貸借借受件数の推移



■移動図書館

松江市立図書館移動図書館車の利用状況（松江キャンパス）

巡回日	新規登録者数	貸出者数	貸出冊数	備考
2018年5月30日(水)	10	-	56	*1
6月29日(金)	6	-	38	*1
10月8日(月・祝)	2	7	44	大学祭
10月31日(水)	8	22	60	
11月29日(木)	3	13	51	
合計	29	42	249	

*1 貸出者数はシステム不調のため抽出できず

いこうる（男女共同参画図書コーナー）の貸出回数

テーマ	展示期間	展示冊数	貸出回数
キャリア・しごと、こころ、歴史、社会	2018年4月～2018年6月	100	27
男女共同参画、貧困・格差、しごと	2018年7月～2018年9月	100	23
生き方、いのち、ジェンダー、しごと、理科系	2018年10月～2018年12月	100	36
経済、こころ、災害、人権、政治	2019年1月～2019年3月	100	14
合計		400	100

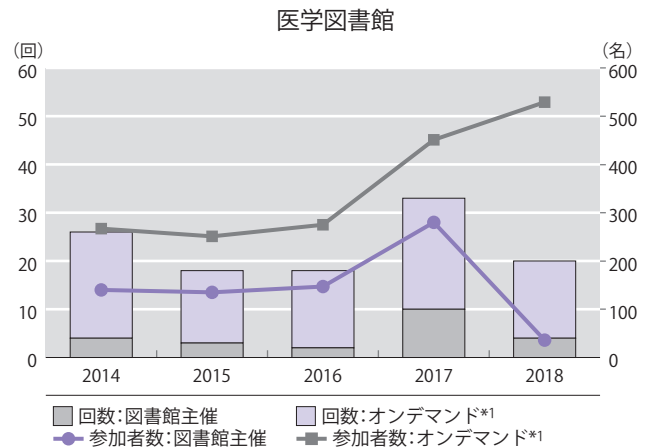
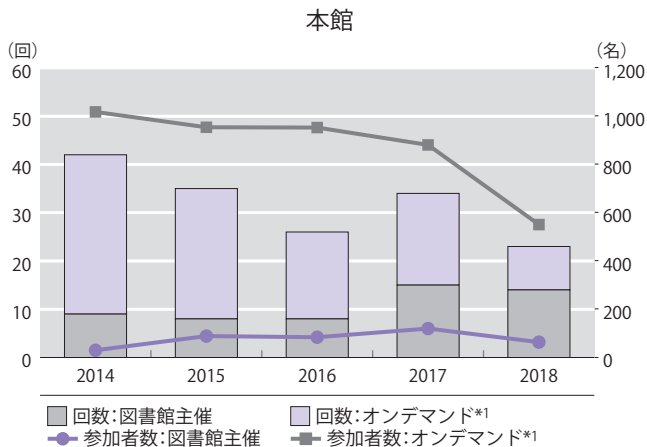
※国立女性教育会館からの団体貸出

講習会

■学術情報リテラシー講習会

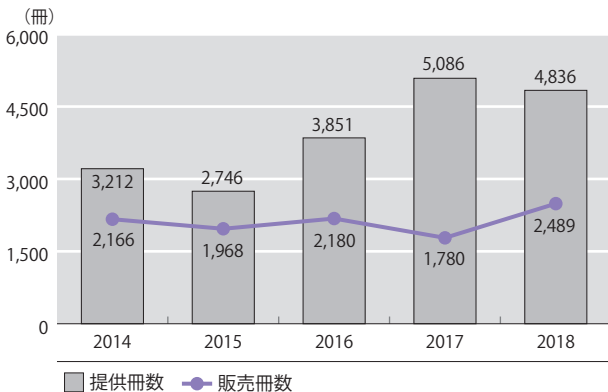
		2014	2015	2016	2017	2018	
本館	図書館主催	回数	9	8	8	15	14
		参加者数	25	74	70	100	53
	オンデマンド*1	回数	33	27	18	19	9
		参加者数	848	795	794	734	459
医学図書館	図書館主催	回数	4	3	2	10	4
		参加者数	140	135	147	280	36
	オンデマンド*1	回数	22	15	16	23	16
		参加者数	267	251	275	451	529
参加総数		1,280	1,255	1,286	1,565	1,077	

*1オンデマンドとは、教員と連携して授業内で実施したものや個々の利用者の求めに応じて開催した講習会を指す。



■その他

■蔵書リユース市



■図書館見学・ツアー（抜粋）

実施日	参加者	人数
2018年6月13日	川津小学校3年生	131
10月16日	高校生(米子北斗、松江東、鳥取工業、倉吉西、大東)	98
10月23日	高校生(岡山県玉島、矢上、境)	110
10月26日	川津小学校2年生	6
11月6日	高校生(島根中央、大田、松江商業)	66
11月14日	高校生(飯南、三刀屋、安来、松江西)	64
11月20日	倉吉東高校PTA	32
11月21日	倉吉北高校	53
12月12日	松江農林・出雲農林高校	10
2019年3月25日	頓原公民館主催小中学生	20

その他の記録

図書館日誌 (2018年4月～2019年3月)

年月日	カテゴリ	館区分	事	項
2018年4月2日	展示	本館	企画展示「島根大学のあゆみ」(4月12日まで)	
4月3日	講習会・研修	本館	新任教員図書館ガイダンス	
4月17日	展示	本館	地域コミュニティラボ展示「松江と茶の湯文化」(5月1日まで)	
4月19日	会議等	共通	中国四国地区大学図書館協議会総会等(島根県民会館)(4月20日まで)	
5月12日	展示	本館	地域コミュニティラボ展示「島根半島四十二浦巡り」(6月3日まで)	
5月16日	講習会・研修	本館	講習会「学ぼう!留学生と日本語で話すコツ!」(学生対象)	
5月24日	会議等	共通	第1回附属図書館運営会議	
5月24日	会議等	本館	第1回附属図書館本館運営会議	
5月25日	その他	共通	島根大学オープンアクセス方針の公開	
5月31日	会議等	医学図書館	第1回附属図書館医学図書館運営会議	
6月5日	イベント	本館	雑誌の無料提供会(6月6日まで)	
6月9日	コンシェルジュ	本館	図書館コンシェルジュ合宿研修(サン・レイク)(6月10日まで)	
6月20日	コンシェルジュ	本館	講習会「ビジュアルデザイン基礎講座」(ビジュアルデザインの基礎)	
6月27日	コンシェルジュ	本館	講習会「ビジュアルデザイン基礎講座」(制作物ブラッシュアップ講座)	
6月27日	コンシェルジュ	本館	第8回ラーコモカフェ「地方ローカル線は今…」	
6月27日	展示	本館	企画展示「イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本」(7月17日まで)	
7月3日	会議等	医学図書館	第2回附属図書館医学図書館運営会議(メール会議7月6日まで)	
7月9日	イベント	本館	第14回蔵書リユース市(7月11日まで)	
7月20日	展示	本館	企画展示「戦争と平和を考える2018」(8月31日まで)	
7月27日	講習会・研修	共通	職員の研修報告会	
8月6日	その他	医学図書館	蔵書点検(医学図書館)(8月10日まで)	
8月7日	講習会・研修	共通	職員の研修報告会	
8月16日	イベント	本館	総合博物館「#カイジウ展」との連携企画(8月24日まで)	
8月20日	その他	本館	インターンシップ(法文学部3年生1名/8月24日まで)	
8月22日	講習会・研修	本館	講習会「学ぼう!留学生と日本語で話すコツ!」(教職員対象)	
8月23日	会議等	共通	第1回附属図書館研究開発室会議	
9月3日	その他	本館	蔵書点検(本館)(9月7日まで)	
9月5日	地域貢献	医学図書館	中学生の職場体験(出雲二中2名/9月7日まで)	
9月6日	コンシェルジュ	本館	大学図書館学生協働交流シンポジウム(広島大学)(9月7日まで)	
9月12日	地域貢献	医学図書館	中学生の職場体験(出雲三中2名/9月14日まで)	
9月13日	展示	本館	企画展示「生誕150年 桑原羊次郎と桑原文庫」(10月18日まで)	
9月28日	コンシェルジュ	本館	ファシリテーション研修会	
10月1日	その他	共通	英語多読強化キャンペーン(1月25日まで)	
10月9日	地域貢献	本館	中学生の職場体験(湖南中2名/10月12日まで)	
10月13日	コンシェルジュ	本館	全国大学ビブリオバトル2018島根地区予選	
10月14日	イベント	共通	島根県図書館大会プレ大会(島根県図書館協会設立5周年記念事業)(くにびきメッセ)	
10月20日	展示	本館	企画展示「AR和歌展」(11月11日まで)	
10月30日	その他	本館	平成30年度防火・防災総合訓練(松江キャンパス)	
11月14日	イベント	本館	学生選書ツアー(今井書店グループセンター店)	
11月16日	展示	本館	地域コミュニティラボ展示「生誕150周年 能海寛」(11月29日まで)	
11月28日	コンシェルジュ	本館	第9回ラーコモカフェ「行くと分かる!ホントの海外って?」	
11月30日	会議等	本館	第2回附属図書館本館運営会議	
12月4日	会議等	医学図書館	平成30年度島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会総会(雲南市立病院)	
12月4日	講習会・研修	共通	英語論文投稿セミナー	
12月5日	展示	本館	地域コミュニティラボ展示「お城の動物園」(12月24日まで)	
12月13日	会議等	医学図書館	第3回附属図書館医学図書館運営会議(メール会議12月19日まで)	
12月15日	イベント	共通	しまね大交流会に出展(くにびきメッセ)	

2019年1月9日	コンシェルジュ	本館	第10回ラーコモカフェ「障がい者支援はなぜ必要なのか？」
1月12日	展示	本館	地域コミュニティラボ展示「さの子さん、上方を旅する」(1月27日まで)
1月31日	会議等	共通	第2回附属図書館運営会議
2月6日	会議等	医学図書館	第4回附属図書館医学図書館運営会議
2月15日	その他	共通	しまね地域資料リポジトリGO-GURaをリニューアル
2月22日	会議等	共通	第3回附属図書館運営会議
3月7日	会議等	共通	第4回附属図書館運営会議(メール会議3月11日まで)
3月14日	その他	本館	キャリアコーナーなど別置コーナーの配架場所や名称を一部変更
3月19日	その他	共通	自動貸出用の機器更新 (IDEC社Pals-RC/本館1台、医学図書館1台)
3月25日	地域貢献	本館	長期休業中の小中学生への施設開放を試行実施(3月29日まで)

報道

事 項	掲 載 紙
地域コミュニティラボ展示「松江と茶の湯文化」	山陰中央新報(2018/4/18)、読売新聞(2018/4/27)
中国四国地区大学図書館協議会総会等	文教ニュース(2018/5/21)
島根大学オープンアクセス方針の公開	カレントアウェアネス(2018/5/25)、STI Update(2018/5/31)
講習会「学ぼう!留学生と日本語で話すコツ!」	文教ニュース(2018/6/18)、山陰中央新報(2018/6/19)、カレントアウェアネス(2018/8/24)
附属図書館職員が日本医学図書館協会奨励賞を受賞	文教ニュース(2018/6/25)、山陰中央新報(2018/7/6)
企画展示「イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本」	朝日新聞(2018/6/29、7/13)、NHK(2018/7/2)、山陰中央新報(2018/7/13)、 文教ニュース(2018/8/6)
第14回蔵書リユース市	マールテレビ(2018/7/6、7/9)、NHK/BSS(2018/7/10)、朝日新聞(2018/7/11)、 文教ニュース(2018/8/20・27)
講習会「ビジュアルデザイン基礎講座」	文教ニュース(2018/7/16)
企画展示「戦争と平和を考える2018」	朝日新聞(2018/7/27)、山陰中央新報(2018/7/29、8/10)、中国新聞(2018/8/6)
総合博物館「#カイジウ展」との連携企画	カレントアウェアネス(2018/8/9)
附属図書館が国立大学図書館協会賞を受賞	文教ニュース(2018/8/13)
企画展示「AR和歌展」	読売新聞(2018/11/1)、朝日新聞(2018/11/3)、毎日新聞(2018/11/5)
ファンリレーション研修会	文教ニュース(2018/11/12)
地域コミュニティラボ展示「お城の動物園」	NHK(2018/12/5)、朝日新聞/BSS(2018/12/11)、中国新聞(2018/12/22)
第10回ラーコモカフェ「障がい者支援はなぜ必要なのか？」	山陰中央新報(2019/1/10)
英語論文投稿セミナー	文教ニュース(2019/1/21)
地域コミュニティラボ展示「さの子さん、上方を旅する」	山陰中央新報(2019/1/23)、読売新聞(2019/1/24)
しまね地域資料リポジトリGO-GURaをリニューアル	カレントアウェアネス(2019/2/18)
長期休業中の小中学生への施設開放を試行実施	カレントアウェアネス(2019/3/14)、山陰中央新報(2019/3/23、3/29)、文教ニュース(2019/5/20)

講師等

年月日	氏 名	発表タイトル等	研修会名等(会場)
2018年4月29日	昌子 喜信	デジタルで学ぶ・知る ふるさと琴浦町	「国指定文化財河本家 春の一般公開」文化講演会(鳥取県琴浦町河本家)
2018年6月28日	昌子 喜信	しまね地域資料リポジトリについて	島根県立図書館との定例会議(島根県立図書館)
2018年7月27日	佐藤 陽子	ICTを使った教育と図書館:教育ITソリューションEXPO報告	学内研修報告会(本館3階多目的室)
2018年8月7日	青柳 和仁	オープンサイエンスの動向:オープンサイエンス・サミット2018報告	学内研修報告会(本館3階多目的室)
2018年9月20日	矢田 貴史	図書館からみた発掘調査報告書	平成30年度文化財担当者専門研修「遺跡情報記録課程」(奈良文化財研究所)
2018年10月19日	青柳 和仁	III対応によるデジタルアーカイブの再構築	平成30(2018)年度国立大学図書館協会シンポジウム(京都大学)
2018年12月4日	田中 やよい	看護研究のための文献検索講習会	第27回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会総会(雲南市立病院)
2019年2月14日	昌子 喜信	しまね地域資料リポジトリについて	松江市立図書館との定例会議(松江市立中央図書館)
2019年3月27日	青柳 和仁	III対応によるデジタルアーカイブの再構築	KU-ORCAS国際シンポジウム「デジタルアーカイブと東アジア文化研究-現状と課題-」(関西大学)

その他の記録

雑誌等での発表・報告

年月	氏名	タイトル	掲載誌等
2018年12月	小林 奈緒子	松江の漢詩文化と政治的ネットワーク (第3章)	桑原羊次郎：郷土のエンサイクロペディア (松江市ふるさと文庫21) . 松江市歴史まちづくり部史料編纂課, 2018.12
2018年12月	昌子 喜信	島根大学附属図書館「桑原文庫」-収蔵の経緯と概要-(コラム2)	桑原羊次郎：郷土のエンサイクロペディア (松江市ふるさと文庫21) . 松江市歴史まちづくり部史料編纂課, 2018.12
2019年1月	矢田 貴史	図書館からみた発掘調査報告 (III, 発掘調査報告書の電子公開)	デジタル技術による文化財情報の記録と利活用. 奈良文化財研究所, 2019.1
2019年3月	山崎 月子	西東文庫企画展示：「イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本」を開催して	沁雲. No.21, 2019.3
2019年3月	三村 のぞみ	大学図書館におけるAR (拡張現実) を使用した展示の試み：「AR和歌展」実施報告	沁雲. No.21, 2019.3
2019年3月	小林 奈緒子	「戦争と平和を考える2018—永井隆と平和への思い—」実施報告	沁雲. No.21, 2019.3

研修等への参加

期間	氏名	名称 (会場)
2018年5月17日	佐藤 陽子	教育ITソリューションEXPO (東京ビッグサイト)
2018年6月5日～21日	赤木 智香、横山 茉莉、鈴木 せり佳	附属図書館初任者研修 (附属図書館) ※計3日間
2018年6月18日～19日	青柳 和仁	オープンサイエンス・サミット2018 (学術総合センター)
2018年8月23日～24日	田中 やよい	JMLA：日本医学図書館協会コア研修 (東邦大学習志野メディアセンター)
2018年9月27日～28日	田中 やよい	著作権実務講習会 (京都大学)
2018年10月2日～5日	三村 のぞみ	大学図書館職員短期研修 (京都大学)
2018年10月18日～19日	佐藤 陽子	中国四国地区大学図書館研究会「サービスの拡充と業務の効率化」(高知大学)
2018年10月30日	小林 奈緒子	図書館総合展 (パシフィコ横浜)
2019年1月25日	佐藤 陽子、小林 奈緒子	島根県公共図書館職員専門研修「図書館PR実践講座」(松江合同庁舎)

※図書館コンシェルジュの活動にかかる研修等は除く

人事異動

発令年月日	氏名		異動後	異動前
2018年4月1日	大久保 弘章	学内異動	企画部図書情報課係長 (企画・整備G総務・会計担当)	教育学部・人間科学部係長
2018年4月1日	佐藤 陽子	課内異動	企画部図書情報課図書職員 (企画・整備Gコンテンツ担当)	企画部図書情報課図書職員 (医学情報G)
2018年4月1日	小林 奈緒子	職種変更	企画部図書情報課主任 (図書職員) (情報サービスG学術情報担当)	企画部図書情報課主任 (事務職員) (情報サービスG学術情報担当)
2018年4月1日	赤木 智香	採用	企画部図書情報課図書職員 (情報サービスG資料利用担当)	-
2018年4月1日	横山 茉莉	採用	企画部図書情報課図書職員 (医学情報G)	-
2018年5月1日	鈴木 せり佳	採用	企画部図書情報課図書職員 (情報サービスG資料利用担当)	-
2019年3月31日	舟本 幸福	退職	(横浜国立大学研究・学術情報部図書館情報課長)	企画部図書情報課長
2019年3月31日	木佐 剛典	退職	-	企画部図書情報課主任 (企画・整備G総務・会計担当)
2019年3月31日	米田 政子	退職	-	企画部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)
2019年3月31日	鈴木 せり佳	退職	-	企画部図書情報課図書職員 (情報サービスG資料利用担当)
2019年4月1日	竹下 啓行	採用	企画部図書情報課長	岡山大学附属図書館情報管理課主査
2019年4月1日	金田 紀子	学内異動	企画部図書情報課主任 (企画・整備G総務・会計担当)	企画部国際交流課主任
2019年4月1日	目次 真也	採用	企画部図書情報課図書職員 (情報サービスG資料利用担当)	-

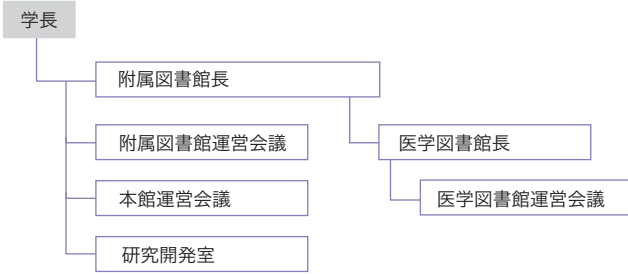
※2018年4月1日～2019年4月1日

刊行物

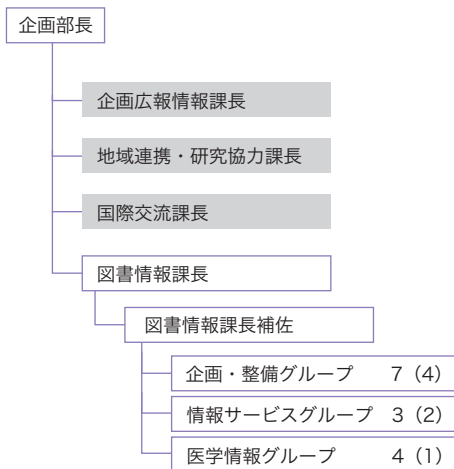
2018年 7月	島根大学附属図書館年報2017
2019年 3月	島根大学附属図書館報「沁雲」第21号
毎月	医学図書館ニュース「インフォ・アクセス」(Vol. 14, No. 4～Vol. 15, No. 3)
季刊	図書館コンシェルジュ広報誌「LiMe：ライム」(図書館コンシェルジュ編集・発行)

組織図

島根大学附属図書館 2018.4時点



企画部 2018.4時点 ※数字は職員数（カッコ内は非常勤職員で外数）



沿革 (抄)

※詳細は図書館HP参照

2003.10	島根大学と島根医科大学が統合し、附属図書館は本館と医学分館の2館となる
2006.2	医学分館にて大森文庫室を改修
2007.2	島根県立図書館、松江市立図書館と相互協力協定を締結
2007.4	島根大学学術情報リポジトリ「SWAN」公開
2007.6	平成19年度国立大学図書館協会賞受賞
2007.11	島根県立大学出雲キャンパス図書館、出雲市立図書館と相互協力協定を締結
2007.12	医学分館の耐震改修工事完了
2008.4	島根県大学・高等専門学校図書館協議会設立
2008.5	全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト始動
2008.10	デジタル・アーカイブの提供開始
2010.4	医学分館を医学図書館と名称変更
2010.10	本館にて図書館コンシェルジュの活動開始
2013.2	本館の耐震・機能改修工事完了
2013.4	大学組織の機構化により、学術情報機構の下に附属図書館を再編
2013.6	島根県図書館協会設立
2014.6	平成26年度国立大学図書館協会賞受賞
2015.6	全国遺跡報告総覧の公開（遺跡資料リポジトリを統合移管）
2015.10	英語版Webページ公開
2016.4	機構化の見直しにより、附属図書館単独の組織に再編
2016.11	しまね地域資料リポジトリGO-GURa公開
2017.1	本館にて地域コミュニティラボ開設
2018.1	デジタル・アーカイブをリニューアル（IIIFに対応）
2018.5	島根大学オープンアクセス方針を公開
2018.6	平成30年度国立大学図書館協会賞受賞

附属図書館運営会議

2018.4時点

議長 杉江 実郎（附属図書館長、総合理工学研究科教授）

丸山 理留敬（医学図書館長、医学部教授）

香川 奈緒美（教育学部准教授）

長谷川 千紘（人間科学部講師）

平川 正人（総合理工学研究科教授）

井上 憲一（生物資源科学部教授）

要木 純一（法文学部教授）

諸岡 了介（教育学部准教授）

松崎 有未（医学部教授）

内藤 貫太（総合理工学研究科教授）

舟本 幸福（企画部図書情報課長）

嘉村 雄司（法文学部准教授）

高見 友理（人間科学部准教授）

福田 誠司（医学部教授）

地阪 光生（生物資源科学部准教授）

附属図書館研究開発室

任期：2017（平成29）～2018（平成30）年度

室長 杉江 実郎（附属図書館長、統括）

顧問 松尾 寿（本学名誉教授、記録史料（近世史））

室員 田中 則雄（法文学部教授、和古書（国文学））

室員 小林 准士（法文学部教授、記録史料（近世史））

室員 森本 直人（教育学部教授、教科書データベース）

室員 岩田 淳（医学部教授、西東文庫）

副室長 丸山 理留敬（医学図書館長、統括（医学図書館関連））

顧問 常松 正雄（本学名誉教授、英米文学）

室員 野本 瑠美（法文学部准教授、和古書（国文学））

室員 加本 純夫（元図書館職員、記録史料（近世史））

室員 權藤 誠剛（教育学部教授、教科書データベース）

参加組織（図書館関係）

・JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）

・中国四国地区大学図書館協議会

・島根県医療関係機関図書館（室）懇談会

・国立大学図書館協会

・日本医学図書館協会

・島根県図書館協会

・国立大学図書館協会中国四国地区

・日本医学図書館協会中国・四国地区会

・島根県大学・高等専門学校図書館協議会

本館 Main Library in Matsue

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
Tel (0852)32-6083 Fax (0852)32-6089

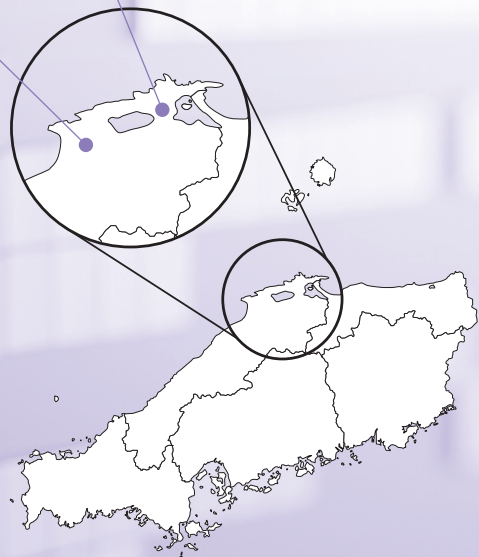
竣工:1978(昭和53)年1月17日
増築竣工:1984(昭和59)年12月25日
耐震・機能改修:2013(平成25)年2月28日
構造:鉄筋コンクリート造3階建、書庫8層
面積:6,826㎡
席数:560席



医学図書館 Medical Library in Izumo

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
Tel (0853)20-2090 Fax (0853)20-2095

竣工:1979(昭和54)年3月19日
耐震改修:2007(平成19)年12月20日
構造:鉄筋コンクリート造3階建
面積:1,819㎡
席数:267席



Webページ <https://www.lib.shimane-u.ac.jp/>
Twitter [@Shimadai_Lib](https://twitter.com/Shimadai_Lib)
ブログ <http://shimadai-lib.hatenablog.jp/>